

資料

# 科学史・技術史関連科目シラバス（2016年度）に採用された教科書・参考書一覧

杉本 舞\*

List of textbooks and references in syllabi for courses on the history of science and technology offered in Japan from academic year 2016

Mai Sugimoto

## §1 本資料について

本資料は、2016年度に開講された全国の科学史・技術史関連科目（医学史・数学史などを含む）シラバスの「教科書・参考書」欄、あるいはそれに相当する項目に掲載されていた文献の一覧である。

2008年の大学設置基準の改正（2条の2）および2011年の学校教育法施行規則の改正などを背景に、近年大学の授業科目シラバスは大学ウェブサイト上で公開されることが多くなった。そこで、ウェブサイトを通じて閲覧可能なシラバスを調査したところ、701大学の授業計画を含むシラバスを閲覧することができた<sup>1</sup>。その結果、授業科目名に科学史・技術史・医学史・数学史・生物学史・化学史・物理学史・天文学史といった、科学史や技術史に直接関係した語が入っている科目（シラバスの具体的内容が科学や技術の歴史を取り扱っているとは言えないものも含む）と、授業科目名に関わらず科学史・技術史（医学史・数学史などを含む）に関連するトピックを授業全体の1割以上で取り扱っていると授業計画から判断される科目を、309の大学で合計835科目確認することができた（ただし、これは目視と手作業による収集によるので、全国で開講されている科学史・技術史関連科目のシラバスをすべて網羅できたとはいえない。なお、2016年度学校基本調査による全国の大学数は777校である）。科目名を調べたところ、これ

---

\* 関西大学社会学部

<sup>1</sup> ただし東京大学のシラバスのみ紙媒体シラバスの写真データという形式で入手した。収集にあたっての稲葉肇氏（慶應義塾大学）の協力を感謝する。

らの半数近くが「科学史」や「技術史」を標榜する科目であったが、その他には「自然科学概論」「科学技術社会論」「科学哲学」「医学概論」といった科目名のものが含まれていた<sup>2</sup>。

収集したシラバスのうち、「教科書・参考書」に相当する項目に記載があったのは311科目であった。本資料はこの311科目に記載されていた合計991文献(重複を除く)を一覧するものである。シラバス内で書誌情報に誤りがあったもの、情報に欠落があったものについては、各種の書誌情報データベースなどを用いて補完した。なお、教科書や参考書は「授業中に指示する」「配布プリントで授業を行う」と記載されていたシラバスも多く、実際には本資料に出現しない文献が授業で用いられていることが予想される。

991文献のうち、2000年以降に発行された文献は64%であり、全体の3割以上が1999年以前の文献であった。最も古いテキストは1930年発行(セジキク・タイラア『自然科学史』岩波書店)であった。もっとも採用数が多い文献は中島秀人(2008)『社会の中の科学』放送大学教育振興会、古川安(2001)『増訂版 科学の社会史—ルネサンスから20世紀まで』南窓社で18科目での採用、次点はトーマス・クーン(1971)『科学革命の構造』みすず書房で、13科目での採用であった。もっとも採用数が多い文献でも教科書・参考書を明記していたシラバスの1割に満たないことから、科学史・技術史関連科目で取り扱われる文献には大きな多様性があることが伺える。

## §2 教科書・参考書一覧

書誌情報末尾の角括弧内の数字は、当該文献が採用されているシラバスの数である。ただし、採用数1のものは記述を省略した。一覧性を高めるため、文献は関連性の高いものがまとまるよう書名等を参考に分類し、年代順に並べた。

原書と翻訳書は別書として取扱った。外国人の著者名については、原則としてシラバスでの表記法にならった。翻訳者名は原則として省略した。出版年では日本での出版年であり、原書の出版年は省略した。

<sup>2</sup> なお、以下の論文で、この835科目のシラバス内の記述のうち「授業の概要・目的」「学習目標・到達目標」「授業計画」の項目に相当する内容について、テキストマイニングの手法を用いて分析を行った。シラバス収集方法、収集したデータの属性に関する詳細などについても、論文を参照されたい。杉本舞「科学史・技術史関連科目とはどのような科目か?—2016年度シラバスのテキストマイニングを手掛かりとして」『科学史研究』第285号(2018年刊行予定)。

## 2.1 科学史概論 (33 文献)

- セジキク・タイアラ (1930) 『自然科学史』岩波書店
- 岡邦雄 (1949) 『自然科学史』白揚社
- メイスン (1955) 『科学の歴史—科学思想の主な流れ』上・下巻 岩波書店 [3]
- 平田寛・田中実・菅井準一 (1963) 『科学史物語』角川書店
- 杉本勲 (編) (1967) 『科学史』山川出版
- バナール (1967) 『歴史における科学』みすず書房
- チャールズ・シンガー (1968) 『科学思想のあゆみ』岩波書店 [4]
- 木村陽二郎 (編) (1971) 『科学史』有信堂
- シュテリヒ (1975) 『西洋科学史』1-4 巻, 社会思想社
- フリードリヒ・ダンネマン (1977) 『新訳 ダンネマン 大自然科学史』1-4 巻, 三省堂 [2]
- 大沼正則 (1978) 『科学の歴史』青木書店 [2]
- 橋本敬造・市川米太・宮下三郎 (1982) 『自然観の変遷—宇宙・物質・生命』学術図書出版 [2]
- 佐々木力 (編) (1987) 『科学史』弘文堂
- 成定薫・横山輝雄・高田紀代志・下坂英・杉山滋郎 (編著) (1987) 『科学見直し叢書』全 4 巻, 木鐸社
- 平田寛 (1988) 『科学の文化史』朝倉書店
- 藤村淳・脇岡義人・江上生子・兵藤友博 (1988) 『科学—その歩み』東京教学社 [3]
- 伊藤俊太郎・村上陽一郎 (編) (1989) 『講座科学史 3 比較科学史の地平』培風館
- 伊東俊太郎・村上陽一郎 (編) (1989) 『西欧科学史の位相』培風館 [2]
- 磯直道 (1993) 『科学思想史入門』東京教学社
- 杵掛俊夫 (1996) 『科学の歴史 15 講』開成出版
- 八杉龍一 (1996) 『図解 科学の歴史』東京教学社 [4]
- 渋谷一夫・河村豊・小林武信・徳元琴代・北林雅洋 (1997) 『科学史概論』ムイスリ出版 [4]
- 端山好和 (1998) 『自然科学史入門』東海大学出版会 [4]
- 佐藤満彦 (2002) 『科学史こぼれ話』恒星社厚生閣
- John Krige and Dominique Pestre (eds.) (2002) *Companion to Science in the Twentieth Century*, Routledge
- 伊東俊太郎・広重徹・村上陽一郎 (2008) 『改訂新版 思想史のなかの科学』平凡社 [10]
- History of Science Society (2008) *Isis*, vol.99, The University of Chicago Press [2]

- 中根美知代・佐藤賢一・他 (2009) 『科学の真理は永遠に不変なのだろうか』ベレ出版 [7]
- マイケル・モーズリー, ジョン・リンチ (2011) 『科学は歴史をどう変えてきたか—その力・証拠・情熱』東京図書 [10]
- 池内了 (2012) 『知識ゼロからの科学史入門』幻冬舎 [3]
- 小谷太郎 (2012) 『人類を変えた科学の大発見』中経出版
- ウィリアム・F・バイナム (2013) 『歴史でわかる科学入門』太田出版 [2]
- 山中康資 (2014) 『はじめて学ぶ科学史』共立出版 [4]

## 2.2 近代以前 (17 文献)

- グレゴリィ (1969) 「アリストテレス自然学導入以前の中世哲学における自然観—12 世紀(正)」飯尾郁人・近藤映子訳『イタリア学会誌』第 17 巻, pp.108-129.
- 藪内清 (1970) 『中国の科学文明』岩波新書 [2]
- グレゴリィ (1971) 「アリストテレス自然学導入以前の中世哲学における自然観—12 世紀(続)」飯尾郁人・近藤映子訳『イタリア学会誌』第 19 巻, pp.114-133.
- エドワード・グラント (1982) 『中世の自然学』みすず書房
- ジョスリン・ゴドウィン (1986) 『キルヒャーの世界図鑑—よみがえる普遍の夢』工作舎
- アレン・G・ディバス (1986) 『ルネサンスの自然観: 理性主義と神秘主義の相克』サイエンス社
- Rosalind Thomas (1991) *Oral Tradition and Written Record in Classical Athens*, Cambridge University Press
- 中山茂 (1993) 『近世日本の科学思想』講談社学術文庫
- G・E・R・ロイド (1994) 『初期ギリシア科学—タレスからアリストテレスまで』法政大学出版局 [3]
- 村上陽一郎 (1995) 『科学史の逆遠近法—ルネサンスの再評価』講談社学術文庫 [2]
- 中野忠 (2000) 『前工業化ヨーロッパの都市と農村』成文堂
- G・E・R・ロイド (2000) 『後期ギリシア科学—アリストテレス以後』法政大学出版局 [2]
- ディミトリ・グタス (2002) 『ギリシア思想とアラビア文化—初期アッバース朝の翻訳運動』勁草書房
- 伊東俊太郎 (2006) 『十二世紀ルネサンス』講談社学術文庫 [3]

- ダニエル・ジャカール(2006)『アラビア科学の歴史』創元社  
 山本義隆(2007)『一六世紀文化革命』1-2巻, みすず書房  
 ジョゼフ・ニーダム(2009)『ニーダム・コレクション』ちくま学芸文庫

## 2.3 近代科学(17文献)

- H・バターフィールド(1956)『近代科学の歩み』岩波書店  
 村上陽一郎(1971)『西欧近代科学』新曜社[3]  
 H・バターフィールド(1978)『近代科学の誕生』上・下巻, 講談社学術文庫[6]  
 R・S・ウェストフォール(1980)『近代科学の形成』みすず書房[2]  
 村上陽一郎(1986)『近代科学を超えて』講談社学術文庫  
 杉山滋郎(1994)『日本の近代科学史』朝倉書店  
 村上陽一郎(1994)『文明のなかの科学』青土社  
 宗像恵・中岡成文(編)(1995)『西洋哲学史 近代編—科学の形成と近代思想の展開』ミネルヴァ書房  
 渡辺正雄(2000)『文化としての近代科学』講談社学術文庫  
 長田好弘(2003)『近代科学を築いた人々』上・中・下巻, 新日本出版社[2]  
 Bowler and Morus (2005) *Making Modern Science: A Historical Survey*, University of Chicago Press  
 伊東俊太郎(2007)『近代科学の源流』中公文庫[7]  
 広重徹(2008)『近代科学再考』ちくま学芸文庫[2]  
 村上陽一郎(2008)『新版 西欧近代科学—その自然観の歴史と構造』新曜社  
 David Knight (2009) *The Making of Modern Science*, Polity Press  
 隠岐さや香(2011)『科学アカデミーと「有用な科学」 フォントネルの夢からコンドルセのユートピアへ』名古屋大学出版会  
 デイビッド・C・リンドバーグ(2011)『近代科学の源をたどる—先史時代から中世まで』朝倉書店[2]

## 2.4 科学革命(16文献)

- トーマス・クーン(1971)『科学革命の構造』みすず書房[13]

- 佐々木力(1985)『科学革命の歴史構造』上巻, 岩波書店  
 トーマス・クーン(1989)『コペルニクス革命』講談社学術文庫[7]  
 大野誠(編)(1992)『科学史へのいざない—科学革命期の原典を読む』南窓社[2]  
 佐々木力(1995)『科学革命の歴史構造』上・下巻, 講談社学術文庫[5]  
 T. Kuhn (1996) *The Structure of Scientific Revolutions* 3rd ed., University of Chicago Press  
 トーマス・クーン(1998)『科学革命における本質的緊張』みすず書房  
 スティーヴン・シェイピン(1998)『「科学革命」とは何だったのか』白水社[2]  
 瀬戸一夫(2001)『コペルニクスの転回の哲学』勁草書房  
 ジョン・ヘンリー(2005)『一七世紀科学革命』岩波書店[6]  
 野家啓一(2008)『パラダイムとは何か—クーンの科学史革命』講談社学術文庫[7]  
 中山茂(2011)『パラダイムでたどる科学の歴史』ベレ出版[3]  
 Lawrence M. Principe (2011) *The Scientific Revolution: A Very Short Introduction*, Oxford University Press[3]  
 ビーター・ディア(2012)『知識と経験の革命—科学革命の現場で何が起ったか』みすず書房  
 中山茂(2013)『パラダイムと科学革命の歴史』講談社学術文庫[2]  
 Lawrence M. Principe (2014)『科学革命』丸善出版[6]

## 2.5 天文学史(18文献)

- アレクサンドル・コイレ(1973)『閉じた世界から無限宇宙へ』みすず書房  
 フレッド・ホイル(1974)『コペルニクス—その生涯と業績』法政大学出版会  
 藪内清(1980)『歴史はいつ始まったか—年代学入門』中公新書  
 広瀬秀雄(1981)『天文学史の試み—誕生から電波観測まで』誠文堂新光社  
 コペルニクス(1993)『コペルニクス・天球回転論』みすず書房[4]  
 金子務(1995)『宇宙観の歴史と人間』放送大学教育振興会[2]  
 村上陽一郎(1996)『宇宙像の変遷』講談社学術文庫[2]  
 アレクサンドル・コイレ(1999)『コスモスの崩壊—閉ざされた世界から無限の宇宙へ』白

水社

岡村定矩・池内了・海部宣男・佐藤勝彦・永原裕子(編)(2007)『人類の住む宇宙』日本評論社

クリストファー・ウォーカー(2008)『望遠鏡以前の天文学—古代からケプラーまで』恒星社厚生閣 [2]

ジェームズ・ギンガリッチ, オーウェン・マクラクラン(2008)『コペルニクス』大月書店 [2]

平岡隆二(2008)「イエズス会の日本布教戦略と宇宙論」『長崎歴史文化博物館研究紀要』第3巻, pp.43-73, 長崎歴史文化博物館

桜井邦朋(2011)『天文学をつくった巨人たち—宇宙像の革新史』中公新書

中村士・岡村定矩(2011)『宇宙観 5000 年史—人類は宇宙をどうみてきたか』東京大学出版会 [4]

クリストファー・ロイド(2012)『137 億年の物語—宇宙が始まってから今日までの全歴史』文藝春秋

Michael Hoskin(2013)『西洋天文学史』丸善出版 [2]

中村士(2014)『東洋天文学史』丸善出版

山本義隆(2014)『世界の見方の転換』みすず書房 [3]

## 2.6 物理学史 (47 文献)

アインシュタイン(1940)『物理学はいかに創られたか』上・下巻, 岩波新書 [2]

ジョージ・ガモフ(1967)『現代の物理学—量子論物語』河出書房新社

E・アンドレード(1968)『ニュートン—私は仮説をつくらない』河出書房新社

広重徹(1968)『物理学史』1-2 巻, 培風館 [3]

デーヴィッド・マクドナルド(1968)『フェラデー、マクスウェル、ケルビン—電磁気学のパイオニア』河出書房新社

E・T・ホイッターカー(1976)『エーテルと電気の歴史』上・下巻, 講談社

朝永振一郎(1979)『物理学とはなんだろうか』上・下巻, 岩波新書 [6]

山本義隆(1981)『重力と力学的世界—古典としての古典力学』現代数学社 [3]

安孫子誠也(1981)『歴史をたどる物理学』東京教学社 [2]

柳瀬睦男(1984)『現代物理学と新しい世界像』岩波現代選書

トランスナショナルカレッジオペレックス(編)(1991)『量子力学の冒険』ヒッポファミリークラブ

エミリオ・セグレ(1992)『古典物理学を創った人々—ガリレオからマクスウェルまで』みすず書房 [3]

高木仁三郎(1992)『マリー・キュリーが考えたこと』岩波書店

レーダーマン, シュラム(1993)『クォークから宇宙へ』東京化学同人

ブレヒト(1995)『ガリレイの生涯』『ブレヒト戯曲選集 第3巻』白水社

中島秀人(1996)『ロバートフック ニュートンに消された男』朝日新聞社

霜田光一(1996)『歴史を変えた物理実験』丸善  
西尾成子(1997)『こうして始まった 20 世紀の物理学』裳華房 [2]

池田和義(1999)『図解・わかる相対性理論』講談社

スーザン・クイン(1999)『マリー・キュリー』1-2 巻, みすず書房

小柳公代(1999)『バスカルの隠し絵—実験記述にひそむ謎』中公新書

平田光司(1999)「SSC と大型装置科学の現在」『科学』69 巻 3 号, pp.164-168, 岩波書店

リチャード・ファインマン(2000)『ご冗談でしょう、ファインマンさん』上巻, 岩波現代文庫

中谷宇吉郎(2000)『中谷宇吉郎集』全 8 巻, 岩波書店

平田光司(2002)『加速器とビームの物理』岩波書店

山本義隆(2003)『磁力と重力の発見』全 3 巻, みすず書房 [2]

アインシュタイン(2004)『新装版 特殊および一般相対性理論について』白揚社

Morris Low(2005) *Science and the Building of a New Japan*, New York: Palgrave Macmillan

スティーブン・ワインバーグ(2006)『新版 電子と原子核の発見—20 世紀物理学を築いた人々』ちくま学芸文庫

安孫子誠也・岡本拓司・小林昭三・田中一郎・夏目賢一・和田純夫(2007)『はじめて読む物理学の歴史』ベレ出版 [2]

バーバラ・ゴールドスミス(2007)『マリー・キュリー—フラスコの中の闇と光』WAVE 出版

中根良平・仁科雄一郎・仁科浩二郎・矢崎裕二・江沢洋(編)(2007)『仁科芳雄往復書簡集—現代物理学の開拓〈3〉大サイクロトロン・二号研究・戦後の再出発 1940 - 1951』みすず書房

福島肇(2007)『新装版 物理の ABC—光学から特殊対論まで』講談社

小山慶太(2008)『物理学史』裳華房 [2]

田中正(2008)『湯川秀樹とアインシュタイン』

岩波書店

山本義隆(2008)『熟学思想の史的展開』全3巻  
ちくま学芸文庫

朝永振一郎(2010)『物理の歴史』ちくま文芸文  
庫 [2]

平田光司(2011)「高エネルギー物理学の社会  
史」『科学と社会 2010』pp.295-339, 総合研  
究大学院大学

ピーター・ベジック(2011)『青の物理学—空色  
の謎をめぐる思索』岩波書店

大栗博司(2012)『重力とは何か—アインシュタ  
インから超弦理論へ、宇宙の謎に迫る』幻冬  
舎新書

小野昱郎(2012)『波動 音波・光波』森北出版  
小山慶太(2012)『エネルギーの科学史』河出書  
房新社

高野義郎(2013)『力学の発見—ガリレオ・ケプ  
ラー・ニュートン』岩波ジュニア新書

ケネス・フォード(2014)『量子的世界像 101 の  
新知識』講談社

ヘリガ・カーオ(2015)『20世紀物理学史：理  
論・実験・社会』上・下巻 名古屋大学出版会

原康夫(2015)『第3版 物理学入門』学術出版社  
山崎耕造(2015)『楽しみながら学ぶ物理入門』  
共立出版

## 2.7 化学史 (11 文献)

東京都立大学工業化学科分子応用科学研究会  
(1992)『化学がつくる驚異の機能材料—カ  
メレオン色素から超臨界流体まで』講談社

筏英之(1997)『百万人の化学史—「原子」神話  
から実体へ』アグネ承風社

多賀光彦・片岡正光・早野清治(2003)『教養の  
現代化学』三共出版

齋藤勝裕(2004)『楽しくわかる化学』東京化学  
同人

日本化学会教育協議会(編)(2007)『化学入門  
編—身近な現象・物質から学ぶ化学のしく  
み』化学同人

T・H・ルヴィア(2007)『入門化学史』朝倉書店

荻野和子・竹内茂彌・栢植秀樹(編)(2009)『環  
境と化学—グリーンケミストリー入門』東京  
化学同人

竹内敬人(2010)『人物で語る化学入門』岩波  
新書

松本泉・佐々木ケン(2010)『マンガおはなし化  
学史』講談社

Peter Atkins(2014)『化学—美しい原理と恵み』  
丸善出版

中川鶴太郎(2016)『ラヴォアジエ』清水書院

## 2.8 医学史 (82 文献)

アーチボルド・ジョセフ・クロニン(1955)『城  
砦』上・下巻, 新潮文庫

シュヴァイツェル(1957)『水と原生林のはざま  
で』岩波文庫

小川鼎三(1964)『医学の歴史』中公新書 [4]

フーコー(1969)『臨床医学の誕生』みすず書房  
クロード・ベルナル(1970)『実験医学序説』  
岩波文庫 [2]

司馬遼太郎(1976)『花神』上・中・下巻, 新潮  
文庫 [2]

岡西為人(1977)『本草概説』創元社 [2]

川喜田愛郎(1977)『近代医学の史的基盤』上・  
下巻, 岩波書店 [2]

アッカークネヒト(1978)『パリ病院—1794-  
1848』思索社

ジョセフィン・ドララン(1978)『看護・医療の歴  
史』誠信書房

マイヤー・シュタイネック, ズートホフ(1982)  
『図説 医学史』朝倉書店

鈴木善次(1983)『日本の優生学—その思想と運  
動の軌跡』三共出版

立川昭二(1984)『病と人間の文化史』新潮選書  
フーコー(1986)『性の歴史 1 知への意志』新  
潮社

川田洋一(1987)『仏教医学物語』上・下巻, レ  
グルス文庫

杉田暉道(1987)『ブッダの医学』平河出版社  
渡辺淳一(1990)『遠き落日』集英社文庫

杉立義一(1991)『医心方の伝来』思文閣出版  
マルヴィン・E・リング(1991)『図説 歯科医学  
史』西村書店

アンドルー・ワイル(1993)『ヒトはなぜ治るの  
か』日本教文社

小俣和一郎(1995)『ナチスもうひとつの大罪—  
「安楽死」とドイツ精神医学』人文書院

常石敬一(1995)『七三一部隊』講談社現代新書  
石田純郎(1996)『ヨーロッパ医科学史散歩』考  
古堂

浜六郎(1996)『薬害はなぜなくなるらないか』日  
本評論社

マーク・アダムズ(1998)『比較「優生学」史—  
独・仏・伯・露における「良き血管を作る術」  
の展開』現代書館

スティーヴン・J・グールド(1998)『人間の測  
りまちがい—差別の科学史』河出書房新社

- 児玉善仁 (1998) 『〈病氣〉の誕生』 平凡社
- 立川昭二 (1998) 『江戸 病草紙—近世の病氣と医療』 ちくま学芸文庫
- 石田純郎 (1999) 『アジア医科学史散歩』 考古堂
- 井上章一 (1999) 『愛の空間』 角川書店
- エルンスト・クレイ (1999) 『第三帝国と安楽死—生きるに値しない生命の抹殺』 批評社
- 小曾戸洋 (1999) 『漢方の歴史：中国・日本の伝統医学』 大修館書店 [2]
- 槇佐知子 (1999) 『日本の古代医術—光源氏が医者にかかるとき』 文春新書
- 酒井シヅ (2000) 『医学史への誘い—医療の原点から現代まで』 診療新社
- 笠原浩 (2000) 『入れ歯の文化史』 文春新書
- 浜田寿美男 (2001) 『白自の心理学』 岩波新書
- 福田真人 (2001) 『結核という文化—病の比較文化史』 中公新書
- Galen (2002) *Galen, Selected Works, A new translation by P.N. Singer, Oxford University Press*
- 小西宏 (2002) 『不妊治療は日本人を幸せにするか』 講談社現代新書
- 梶田昭 (2003) 『医学の歴史』 講談社学術文庫 [5]
- 粥川準二 (2003) 『クローン人間』 光文社新書
- 田中圭一 (2003) 『病いの世相史—江戸の医療事情』 ちくま新書
- 仲正昌樹・打出喜義・仁木恒夫 (2003) 『「人体実験」と患者の人格権：金沢大学附属病院無断臨床試験訴訟をめぐる』 御茶ノ水書房
- 井上章一・関西性欲学会 (編) (2004) 『性の用語集』 講談社現代新書 [2]
- 岡田英吉 (2004) 『病理学—疾病のなりたちと回復の促進』 医学芸術社
- 小松美彦 (2004) 『脳死・臓器移植の本当の話』 PHP 新書 [2]
- レオン・R・カス (編著) (2005) 『治療を超えて：バイオテクノロジーと幸福の追求』 青木書店
- 近藤均 (2005) 『医療人間学のトリニティー—哲学史学文学』 太陽出版
- 斎藤光 (2005) 『幻想の性 衰弱する身体—性医学の呪縛を超えるには』 洋泉社 [2]
- 米本昌平 (2005) 『バイオリティクス—人体を管理するとはどういうことか』 中公新書 [2]
- デボラ・L・スパー (2006) 『ベビー・ビジネス—生命を売買する新市場の実態』 ランダムハウス講談社
- 仲正昌樹・安西明子・打出喜義・仁木恒夫 (2006) 『「人体実験」と法：金沢大学附属病院無断臨床試験訴訟をめぐる』 御茶ノ水書房
- 新村拓 (2006) 『健康の社会史—養生、衛生から健康増進へ』 法政大学出版局
- 新村拓 (編) (2006) 『日本医療史』 吉川弘文館
- 二宮陸雄 (2006) 『新編 医学史探訪—医学を変えた巨人たち』 医歯薬出版社
- 服部敏良 (2006) 『王朝貴族の病状診断』 吉川弘文館
- 小川道雄 (2007) 『近代医学のあけぼの』 へるす出版 [2]
- 立川昭二 (2007) 『病氣の社会史—文明に探る病因』 岩波現代文庫
- 町田宗鳳・島蘭進 (編) (2007) 『人間改造論—生命操作は幸福をもたらすのか?』 新曜社
- 茨木保 (2008) 『まんが医学の歴史』 医学書院 [3]
- 上田昌文・渡辺麻衣子 (編) (2008) 『エンハンスメント論争：身体・精神の増強と先端科学技術』 社会評論社 [2]
- 酒井シヅ (2008) 『病が語る日本史』 講談社学術文庫 [2]
- 土井康弘 (2008) 『本草学者 平賀源内』 講談社 [3]
- ラフルーア, ベーメ, 島蘭進 (編) (2008) 『悪夢の医療史—人体実験・軍事技術・先端生命科学』 勁草書房
- マーティン・リンストローム (2008) 『買い物する脳—驚くべきニューロマーケティングの世界』 早川書房
- William Bynum (2008) *The History of Medicine: A Very Short Introduction, Oxford University Press*
- 石井拓男・渋谷敏・西巻明彦 (2009) 『スタンダード歯科医学史』 学建書院
- ルチャーノ・ステルベローネ (2009) 『医学の歴史』 原書房
- 井上章一・斎藤光・渋谷知美・三橋順子 (編) (2010) 『性的なことば』 講談社現代新書 [2]
- 小松美彦・市野川容孝・田中智彦 (編) (2010) 『いのちの選択—今、考えたい脳死・臓器移植』 岩波ブックレット
- 酒井シヅ (監修) (2011) 『まるわかり 江戸の医学』 ワニ文庫
- 井上章一 (編) (2013) 『性欲の研究—エロティック・アジア』 平凡社
- 篠田達明 (2013) 『偉人たちのカルテ—病氣が変えた日本の歴史』 朝日文庫
- 新村拓 (2013) 『日本仏教の医療史』 法政大学出版局
- 日本人工臓器学会 (編) (2013) 『人工臓器は、いま—暮らしのなかにある最先端医療の姿』 はる書房
- 小曾戸洋 (2014) 『新版 漢方の歴史』 大修館書店 [2]

坂井建雄(2014)『図説 人体イメージの変遷』岩波現代新書  
 真柳誠(2014)『黄帝医籍研究』汲古書院  
 アン・ルーニー(2014)『医学は歴史をどう変えてきたか』東京書籍  
 井上章一・三橋順子(編)(2015)『性欲の研究—東京のエロ地理編』平凡社  
 笠原浩(2015)『歯科医学の歴史』MDU 出版会  
 W・F・バイナム(2015)『医学の歴史』丸善出版 [2]

## 2.9 医学・薬学一般(33 文献)

東洋療法学校協会(編)(1991)『医療概論』医歯薬出版社 [3]  
 松木邦裕(1996)『対象関係を学ぶ—クライン派精神分析入門』岩崎学術出版  
 日野原重明(2003)『医学概論』医学書院 [4]  
 辰野高司・川瀬清・山川浩司(編)(2005)『薬学概論 改訂第4版増補』南江堂  
 香川靖雄・野澤義則(2006)『ナースのための生化学・栄養学』南山堂  
 カナダ作業療法士協会(編)(2006)『作業療法の視点—作業ができるということ』大学教育出版  
 澤村良二・村田俊郎(2006)『薬学概論 第4版』南山堂  
 東洋療法学校協会(編)(2006)『社会あはき学』医道の日本社  
 日本死の臨床研究会教育研修委員会(編)(2007)『死の臨床とコミュニケーション』人間と歴史社  
 日本人工臓器学会(編)(2007)『人工臓器イラストレイテッド』はる書房  
 池本卯典・小方宗次(編)(2008)『獣医学概論』文永堂出版  
 日本薬学会(編)(2008)『スタンダード薬学シリーズ1 ヒューマニズム・薬学入門』東京化学同人  
 東洋療法学校協会(編)(2009)『関係法規 第7版』医歯薬出版社  
 香川知晶(2009)『命は誰のものか』ディスカバー携書  
 坂井建雄・橋本尚詞(2010)『ぜんぶわかる人体解剖図』成美堂出版  
 杉原素子(編)(2010)『作業療法学概論 改訂第3版』協同医書出版社  
 奈良伸雄(2010)『臨床医学総論/臨床検査医学総論 第3版』医歯薬出版  
 信原幸弘・原聖・山本愛実(編著)(2010)『脳

神経科学リテラシー』勁草書房 [2]  
 東京大学生命科学教科書編纂委員会(2011)『文系のための生命科学 第2版』羊土社  
 渡邊勝之(編)(2011)『医療原論—いのち・自然治癒力』医歯薬出版社  
 池本卯典・吉川泰弘・伊藤伸彦(監修)(2013)『獣医学教育モデルコアカリキュラム準拠 獣医学概論』緑書房 [2]  
 井内康輝(編)(2013)『医学概論—医学生が学ぶべき生命・医療倫理と医学史』篠原出版新社  
 北村論(2013)『医学概論5版—コメディカルのための専門分野テキスト』中外医学社  
 北原雅樹(監修)(2013)『病気とくすりの基礎知識』講談社サイエンティフィック [2]  
 小泉俊三(2013)『健康支援と社会保障制度 1 総合医療論 第3版』医学書院  
 高草木光一(編)(2013)『思想としての「医学概論」—いま「いのち」とどう向き合うか』岩波書店  
 出口禎子(編)(2013)『ナースングラフィカ 精神看護学1 情緒発達と看護の基本』MCメディア出版  
 出口禎子(編)(2013)『ナースングラフィカ 精神看護学2 精神障害と看護の実践』MCメディア出版  
 芦野純夫(監修)(2014)『あん摩、はり、きゅう、柔道整復等営業法の解説 現代語版 第2版』日本医療福祉新聞社  
 小野哲章・峰島三千男・堀川宗之・渡辺敏(編)(2014)『臨床工学技士標準テキスト 第2版増補』コロナ社  
 日本臨床死生学会(編)(2014)『テキスト臨床死生学—日常生活における「生と死」の向き合い方』勁草書房  
 厚生労働統計協会(2015)『国民衛生の動向 2015/2016年』  
 鈴木庄亮(監修)(2016)『シンプル衛生公衆衛生学』南江堂

## 2.10 生物学史(52 文献)

James D. Watson (1981) *The Double Helix: A Personal Account of the Discovery of the Structure of DNA*, Norton Critical Editions, W W Norton & Co Inc.  
 J・E・ラヴロック(1984)『地球生命圏—ガイアの科学』工作舎  
 Evelin Fox Keller(1984) *A Feeling for the Organism: The Life and Work of Barbara McClintock*, W. H. Freeman and Company  
 Martin J. S. Rudwick(1985) *The Great Devonian*



- Controversy*, University of Chicago Press  
ワトソン (1986) 『二重らせん』 講談社文庫  
松永俊男 (1987) 『ダーウィンをめぐる人々』 朝日選書  
丸山茂徳・磯崎行雄 (1988) 『生命と地球の歴史』 岩波新書  
清水博 (1990) 『生命をとらえなおす 増補版』 中公新書  
中村桂子 (1994) 『あなたのなかの DNA—必ずわかる遺伝子の話』 ハヤカワ文庫  
スティーブン・ピンカー (1995) 『言語を生みだす本能』 上・下巻, NHK 出版  
ネルキン, リンディー (1997) 『DNA 伝説—文化のアイコンとしての遺伝子』 紀伊国屋書店  
ピーター・J・ボウラー (1997) 『チャールズ・ダーウィン—生涯・学説・その影響』 朝日選書  
トマス・ラカー (1998) 『セックスの発明—性差の観念史と解剖学のアボリア』 工作舎  
チャールズ・シンガー (1999) 『生物学の歴史』 時空出版  
西村三郎 (1999) 『文明のなかの博物学—西欧と日本』 上・下巻, 紀伊国屋書店  
中村禎里 (2000) 『生物学を創った人々』 みすず書房 [2]  
キャリー・マリス (2000) 『マリス博士の奇想天外な人生』 早川書房  
今井道夫・香川知晶 (編) (2001) 『バイオエシックス入門 第三版』 東信堂 [2]  
デボラ・ブラム (2001) 『なぜサルを殺すのか—動物実験とアニマルライト』 白揚社  
Jonathan Howard (2001) *Darwin: A Very Short Introduction*, Oxford University Press  
ジョルジュ・カンギレム (2002) 『生命の認識』 法政大学出版局  
廣野喜幸・市野川容孝・林真理 (編) (2002) 『生命科学の近現代史』 勤草書房 [3]  
長谷川眞理子 (2002) 『生き物をめぐる 4 つの「なぜ」』 集英社新書  
ブライアン・サイクス (2003) 『イヴの七人の娘たち』 ヴィレッジブックス  
クララ・ピント-コレリア (2003) 『イヴの卵—卵子と精子と前成説』 白揚社  
Richard P. Tucker and Edmund Russell (2004) *Natural Enemy, Natural Ally: Toward an Environmental History of Warfare*, Oregon State Univ Press  
モーリス・ウィルキンズ (2005) 『二重らせん 第三の男』 岩波書店  
ブライアン・チャールズワース, デボラ・チャールズワース (2005) 『進化』 岩波書店  
ブライアン・サイクス (2006) 『アダムの呪い』 ヴィレッジブックス  
鈴木理 (2006) 『分子生物学の誕生 奇跡の年 1953 年』 上巻, 秀潤社  
遠山益 (2006) 『生命科学史』 裳華房 [3]  
長谷川博 (2006) 『アホウドりに夢中』 新日本出版社  
野島博 (2007) 『分子生物学の軌跡—パイオニアたちのひらめきの瞬間』 化学同人  
松居竜五 (2007) 『クマグスの森—南方熊樺の見た宇宙』 新潮社  
下條信輔 (2008) 『サブリミナル・インパクト—情動と潜在認知の時代』 ちくま新書  
シュレーディングガー (2008) 『生命とは何か—物理的にみた生細胞』 岩波文庫 [2]  
ビー・ウィルソン (2009) 『食品偽装の歴史』 白水社 [2]  
キム・ステレレルニー, ポール・E・グリフィス (2009) 『セックス・アンド・デス—生物学の哲学への招待』 春秋社  
エリオット・ソーバー (2009) 『進化論の射程—生物学の哲学入門』 春秋社  
福岡伸一 (2009) 『世界は分けてもわからない』 講談社現代新書  
松永俊男 (2009) 『チャールズ・ダーウィンの生涯—進化論を生んだジェントルマンの社会』 朝日新聞出版 [2]  
グヴェン・ラヴェラ (2009) 『ダーウィン家の人々』 岩波現代文庫  
ジェームス・ワトソン (2010) 『遺伝子の分子生物学 第6版』 東京化学同人  
岩崎秀雄 (2013) 『〈生命〉とは何だろうか 表現する生物学、思考する芸術』 講談社現代新書  
中村禎里 (2013) 『生物学の歴史』 ちくま学芸文庫 [2]  
Michael Benton (2013) 『生命の歴史—進化と絶滅の 40 億年』 丸善出版  
アイザック・アシモフ (2014) 『生物学の歴史』 講談社学術文庫  
岩淵輝 (2014) 『生命 (ゼーレ) の哲学—知の巨人フェヒナーの数奇なる生涯』 春秋社  
リチャード・ドーキンス (2014) 『進化とは何か—ドーキンス博士の特別講義』 早川書房  
ロバート・ヘイゼン (2014) 『地球進化 46 億年の物語』 講談社  
フランク・ライアン (2014) 『破壊する創造者—ウィルスがヒトを進化させた』 早川書房  
東京大学生命科学教科書編纂委員会 (2015) 『現代生命科学』 羊土社

## 2.11 地学史 (17 文献)

- 上田誠也 (1971) 『新しい地球観』岩波新書  
 A・ハラム (1974) 『移動する大陸』講談社現代新書  
 今井功・片田正人 (1978) 『地球科学の歩み』共立出版  
 アルフレッド・ヴェーゲナー (1981) 『大陸と海洋の起源—大陸移動説』上・下巻, 岩波文庫  
 松井孝典 (1991) 『地球・46 億年の孤独—ガイア仮説を超えて』徳間書店  
 矢島道子 (1992) 『地球からの手紙』国際書院  
 丸山茂徳 (1993) 『46 億年 地球は何をしてきたか?』岩波書店  
 吉川惣司・矢島道子 (2003) 『メアリー・アニングの冒険—恐竜学をひらいた女化石屋』朝日選書 [3]  
 矢島道子・和田純夫 (編) (2004) 『はじめての地学史・天文学史』ベレ出版 [5]  
 Martin J. S. Rudwick (2005) *Bursting the Limit of Time*, University of Chicago Press  
 本間慎 (2008) 『新版 データガイド地球環境』青木書店  
 矢島道子 (2008) 『化石の記憶—古生物学の歴史をさかのぼる』東京大学出版会 [4]  
 田近英一 (2009) 『地球環境 46 億年の大変動史』化学同人  
 小川勇二郎 (2010) 『学びなおすと地学はおもしろい』ベレ出版  
 (2013) 『ニュートン別冊 奇跡の惑星 地球の科学—誕生と歴史、構造と環境』ニュートンプレス  
 九里徳泰・左巻健男・平山明彦 (編著) (2014) 『新訂 地球環境の教科書 10 講』東京書籍  
 Martin J. S. Rudwick (2014) *Earth's Deep History: How It Was Discovered and Why It Matters*, University of Chicago Press

## 2.12 数学史 (40 文献)

- 吉田洋一 (1939) 『零の発見』岩波新書  
 デーデキント (1961) 『数について—連続性と数の本質』岩波文庫  
 モリス・クライン (1962) 『数学文化史』上・下巻, 河出書房新社  
 村田全・茂木勇 (1966) 『数学の思想』NHK 出版  
 ユークリッド (1971) 『ユークリッド原論』共立出版  
 スタンリー・ガダー (1980) 『教養のための数学

- の旅』1-2 巻, 啓学出版  
 村田全 (1981) 『日本の数学 西洋の数学—比較数学史の試み』中公新書  
 D・ブリア (1985) 『数学の社会学—知識と社会表象』培風館  
 森毅 (1988) 『数学の歴史』講談社学術文庫  
 矢野健太郎 (1989) 『モノグラフ数学史 改訂版』科学新興社 [2]  
 デヴィッド・バージェス, モラグ・ボリー (1990) 『微分方程式で数学モデルを作ろう』日本評論社  
 銭宝ソウ (編) (1990) 『中国数学史』みすず書房  
 日本数学教育学会 (編) (1997) 『20 世紀数学教育思想の流れ—日本の算数・数学教育』産業図書  
 石村園子 (1999) 『すぐわかる代数』東京図書  
 王青翔 (1999) 『「算木」を超えた男—もう一つの近代数学の誕生と関孝和』東洋書店  
 川本亨二 (1999) 『江戸の数学文化』岩波書店  
 黒木哲徳 (2001) 『なっとくする数学記号』講談社  
 E. T. Jaynes (2003) *Probability Theory: The Logic of Science*, Cambridge University Press  
 小川東・平野葉一 (2003) 『数学の歴史—和算と西欧数学の発展』朝倉書店  
 曾布川拓也・伊代野淳 (2004) 『基本微分方程式』サイエンス社  
 片野善一郎 (2005) 『素顔の数学者たち: 数学史に隠れた 152 のエピソード』裳華房  
 佐藤賢一 (2005) 『そして数は遙かな海へ 東アジアの数理科学史』北樹出版  
 ジョン・スティルウェル (2005) 『数学のあゆみ』上・下巻, 朝倉書店  
 仲田紀夫 (2005) 『意外に役立つ数学 67 の発見』黎明書房  
 安藤洋美 (2007) 『確率論前史』現代数学社  
 近藤洋逸 (2008) 『新幾何学思想史』ちくま学芸文庫  
 中村滋 (2008) 『微分積分学 21 講—天才たちのアイデアによる教養数学』東京図書  
 日本学士院 (編) (2008) 『明治前日本数学史』岩波書店  
 五十嵐善英・船田眞里子・バーバラ神山 (2009) 『数と計算の歩み』牧野書店  
 川原秀城 (2010) 『朝鮮数学史—朱子学的な展開とその終焉』東京大学出版会  
 ユークリッド (2011) 『ユークリッド原論 追補版』共立出版  
 木村俊一 (2012) 『ガロア理論』共立出版  
 三浦伸夫 (2012) 『古代エジプトの数学問題集を解いてみる』NHK 出版 [2]

飯高茂 (2013) 『体論, これはおもしろい—方程式と体の理論』共立出版  
 吉田洋一・赤撰也 (2013) 『数学序説』ちくま学芸文庫  
 Leofranc Holford-Strevens(2013) 『暦と時間の歴史』丸善出版  
 城地茂 (2014) 『和算の再発見』化学同人  
 三浦伸夫 (2014) 『数学の歴史 第4刷』放送大学教育振興会  
 一ノ瀬正樹 (2015) 『確率と曖昧性の哲学』岩波書店  
 高瀬正仁 (2015) 『微分積分学の誕生』SBクリエイティブ

## 2.13 社会史 (10 文献)

辻哲夫 (1973) 『日本の科学思想—その自立への模索』中公新書 [2]  
 大沼正則・藤井陽一郎・加藤邦興 (1975) 『戦後日本科学者運動史』上・下巻, 青木書店  
 福井憲彦 (1986) 『時間と習俗の社会史—生きられたフランス近代へ』新曜社  
 古川安 (1989) 『科学の社会史』南窓社 [2]  
 中山茂・吉岡齊 (編著) (1994) 『戦後科学技術の社会史』朝日新聞社  
 古川安 (2001) 『増訂版 科学の社会史—ルネサンスから 20 世紀まで』南窓社 [16]  
 広重敏 (2002) 『科学の社会史』上・下巻, 岩波書店 [9]  
 Brett M. Bennett and Joseph M. Hodge (eds)(2011) *Science and Empire: Knowledge and Networks of Science Across the British Empire, 1800–1970*, New York: Palgrave Macmillan  
 御代川貴久夫 (2012) 『科学技術報道史』東京電機大学出版局  
 岡本拓司 (2014) 『科学と社会: 戦前期日本における国家・学問・戦争の諸相』サイエンス社

## 2.14 ジェンダー (25 文献)

田部井淳子 (1982) 『エベレスト・ママさん—山登り半世紀』新潮文庫  
 宮田親平 (1985) 『科学者の女性史—コワレフスカヤからマクリントックまで』創知社  
 ルイス・ハーバー (1989) 『20 世紀の女性科学者たち』晶文社  
 アン・ファウスト=スターリング (1990) 『ジェンダーの神話—「性差の科学」の偏見とトリック』工作舎

リタ・レーヴィ・モンタルチャーニ (1990) 『美しき未完成—ノーベル賞女性科学者の回想』平凡社  
 ロンダ・シーピンガー (1992) 『科学史から消された女性たち—アカデミー下の知と創造性』工作舎  
 エヴリン・フォックス・ケラー (1993) 『ジェンダーと科学』工作舎  
 江原由美子 (編) (1996) 『生殖技術とジェンダー』勁草書房  
 ロンダ・シーピンガー (1996) 『女性を弄ぶ博物学—リンネはなぜ乳房にこだわったのか』工作舎 [2]  
 シャロン・バーチュ=マグレイン (1996) 『お母さん、ノーベル賞をもらう—科学を愛した 14 人の素敵な生き方』工作舎  
 江原由美子・金井淑子 (編) (1997) 『フェミニズム』新曜社  
 ダナ・ハラウェイ (2000) 『猿と女とサイボーグ—自然の再発明』青土社 [2]  
 小川眞里子 (2001) 『フェミニズムと科学/技術』岩波書店 [3]  
 ロンダ・シーピンガー (2002) 『ジェンダーは科学を変える!?—医学・霊長類学から物理学・数学まで』工作舎  
 R・L・サイム (2004) 『リーゼ・マイトナー—嵐の時代を生き抜いた女性科学者』シュプリンガー・フェアラーク東京  
 松本伊瑛子・金井篤 (編) (2004) 『ジェンダーを科学する—男女共同参画社会を実現するために』ナカニシヤ出版  
 ヘルガ・リューブザー=メン=ヴァイクマン (2004) 『科学技術とジェンダー』明石書店  
 川島慶子 (2005) 『エミリー・デュ・シャトレとマリー・ラヴワジエ—18 世紀フランスのジェンダーと科学』東京大学出版会 [2]  
 プレンダ・マドックス (2005) 『ダークレディと呼ばれて—二重らせん発見とロザリンド・フランクリンの真実』化学同人  
 江原由美子・山崎敬一 (編) (2006) 『ジェンダーと社会理論』有斐閣  
 ロンダ・シーピンガー (2007) 『植物と帝国—抹殺された中絶薬とジェンダー』工作舎  
 館かおる (編) (2008) 『ジェンダー研究のフロンティア 第四巻 テクノ/バイオ/ポリティクス 科学・医療・技術のいま』作品社  
 科学技術社会論学会 (2009) 『女性と科学技術』科学技術社会論学会誌第 7 号, 玉川大学出版部  
 川島慶子 (2010) 『マリー・キュリーの挑戦 科学・ジェンダー・戦争』トランスビュー [2]  
 木村涼子・伊田久美子・熊安貴美江 (編) (2013) 『よくわかるジェンダー・スタディーズ』ミ

ネルヴァ書房

## 2.15 人物 (10 文献)

- Isaac Asimov (1972) 『科学の壁を破った人たち』共立出版
- Isaac Asimov (1974) 『科学の壁を破った人たち・続』共立出版
- 科学朝日(編)(1989) 『スキャンダルの科学史』朝日新聞社
- 村上陽一郎(1989) 『現代科学の名著』中公新書
- 井山弘幸(1995) 『偶然の科学誌』大修館書店
- 米沢富美子(2005) 『人物で語る物理学入門』上・下巻, 岩波新書 [3]
- オーウェン・ギンガリッチ(編集代表)(2007-) 『オックスフォード 科学の肖像』全 21 巻, 大月書店
- 馬場錬成(2010) 『ノーベル賞の 100 年—自然科学三賞でたどる科学史 増補版』中公新書
- 杉晴夫(2011) 『天才たちの科学史—発見にかくされた虚像と実像』平凡社新書
- 小山慶太(2013) 『科学史人物事典—150 のエピソードが語る天才たち』中公新書

## 2.16 宗教 (9 文献)

- G・H・ボードロイ(1978) 『信仰と科学—テイヤール・ド・シャルダン』創造社
- 渡辺正雄(1987) 『科学者とキリスト教—ガリレイから現代まで』講談社
- 河合隼雄ほか(編)(1992) 『岩波講座 科学と宗教』1-5 巻, 岩波書店
- D・リンドバーグ, R・L・ナンバース(編)(1994) 『神と自然: 歴史における科学とキリスト教』みすず書房 [2]
- ジョン・ポーキングホーン(2001) 『科学者は神を信じられるか—クオーク、カオスとキリスト教のはざままで』講談社
- 村上陽一郎(2002) 『近代科学と聖俗革命』新曜社
- フランシス・コリンズ(2008) 『ゲノムと聖書—科学者、〈神〉について考える』NTT 出版
- Thomas Dixon (2013) 『科学と宗教』丸善出版
- 田中一郎(2015) 『ガリレオ裁判』岩波新書

## 2.17 教育 (12 文献)

- 小倉金之助・鍋島信太郎(1957) 『現代数学教育史』大日本図書

- 永田英治(1994) 『日本理科教材史—理科教材の誕生・普及・消滅・復活, その研究の方法と基礎的ないくつかの教材についての教材史研究の成果』東京法令出版
- 数学教育学会(編)(2001) 『新版 数学教育の理論と実際〈中学校・高校〉』聖文新社
- 永田英治(2003) 『新理科教育入門—理科教材史研究を基礎にして』星の環会
- 国際協力機構(編)(2005) 『日本の教育経験—一途上国の教育開発を考える』東信堂
- 塚原修一(編)(2008) 『高等教育市場の国際化』玉川大学出版部
- 左巻健男・内村浩(編)(2009) 『授業に活かす! 理科教育法 中学校・高等学校編』東京書籍
- 数学教育学会(編)(2010) 『新版 算数教育の理論と実際』聖文新社
- 山崎正勝・小林学(編)(2010) 『学校で習った「理科」をおもしろく読む本』JIPM ソリューション [2]
- 板倉聖宣(2011) 『仮説実験授業の ABC 第 5 班—楽しい授業への招待』仮説社
- 吉見俊哉(2011) 『大学とは何か』岩波新書
- 永田英治(2016) 『新装改訂版 たのしい講座を開いた科学者たち—科学と科学教育の源流』星の環会

## 2.18 科学技術史概論 (13 文献)

- R・J・フォーブス, E・J・デイクステルホイス(1977) 『科学と技術の歴史』みすず書房
- 山崎俊雄・道家達将(1978) 『科学技術史概論』オーム社 [6]
- 橋下敬造・宮下三郎(1990) 『科学と技術への視角』学術図書
- 道家達将(1995) 『科学と技術の歩み』岩波書店
- 中山茂(1995) 『科学技術の戦後史』岩波新書
- 道家達将・赤木昭夫(1999) 『科学と技術の歴史』放送大学教育振興会 [2]
- 山崎正勝・奥山修平・内田正夫・日野川静枝(編)(2000) 『科学技術史概論』ムイスリ出版 [3]
- 竹内啓(2001) 『科学技術・地球システム・人間』岩波書店
- 村上陽一郎(2001) 『文化としての科学/技術』岩波書店
- 平田寛(2006) 『図説 科学・技術の歴史 (新装版)』朝倉書店
- 村上陽一郎(2008) 『科学・技術の二〇〇年をたどりなおす』NTT 出版
- 吉岡齊ほか(編)(2011) 『新通史 日本の科学技

術 世紀転換期の社会史 1995 年～2011 年』  
1-4 巻+別巻, 原書房 [3]  
兵藤友博・小林学・中村真悟 (2015) 『科学と技術の歴史』 ムイスリ出版 [7]

## 2.19 技術史概論 (10 文献)

内田星美 (1974) 『産業技術史入門』 日本経済新聞社  
中山秀太郎 (1987) 『機械発達史』 大河出版  
大沼正則 (1995) 『技術と労働』 岩波書店  
中山茂・後藤邦夫・吉岡齊 (編) (1995) 『通史日本の科学技術』 1-4 巻, 5-I, 5-II 巻, 別巻, 学陽書房  
天野武弘 (1996) 『歴史を飾った機械技術』 オーム社  
中岡哲郎・鈴木淳・堤一郎・宮地正人 (編) (2001) 『産業技術史』 山川出版社  
兵藤友博・雀部晶 (2003) 『技術のあゆみ 増補版』 ムイスリ出版 [3]  
ジャック・チャロナー (2011) 『人類の歴史を変えた発明 1001』 ゆまに書房  
日本機械学会 (編) (2011) 『新・機械技術史』 日本機械学会 [5]  
下間頼一・緒方正則・中辻武・小澤康美・塩津宣子 (2012) 『技術の文化史』 関西大学出版

## 2.20 電子・電気技術史 (39 文献)

城阪俊吉 (1984) 『エレクトロニクスを中心とした科学技術史』 日刊工業新聞社  
高柳健次郎 (1986) 『テレビ始め—イの字が映った日』 有斐閣  
デニス・シャシャ、キャシー・レーザー (1988) 『コンピュータの時代を開いた天才たち』 日経 BP 社  
久保侑治 (1989) 『トランジスタ・集積回路技術史—人類はどのようにして超 LSI を手に入れたか』 オーム社  
山崎俊雄・木本忠昭 (1992) 『新版 電気技術史』 オーム社  
ウィリアム・アスプレイ (1995) 『ノイマンとコンピュータの起源』 産業図書  
相田洋 (1997) 『新・電子立国 4 ビデオゲーム・巨富の攻防』 NHK 出版  
沼上幹 (1999) 『液晶ディスプレイの技術革新史—行為連鎖システムとしての技術』 白桃書房

M・キャンベル=ケリー, W・アスプレイ (2000) 『コンピュータ 200 年史—情報マシン開発物語』 海文堂 [2]  
垂井康夫 (2000) 『日本半導体 50 年史—時代を創った 537 人の証言』 産業タイムズ社  
山崎靖夫 (2002) 『絵ときでわかる無線技術』 オーム社  
岩本洋 (2003) 『絵でみる電気の歴史』 オーム社  
三浦正悦 (2003) 『おもしろ電気通信史』 総合電子出版社  
伊藤俊治 (編) (2005) 『情報メディア学入門』 オーム社  
桂井誠 (2005) 『ハンディブック電気』 オーム社  
高橋雄造 (2006) 『百万人の電気技術史』 工業調査会  
電子情報通信学会 (編) (2006) 『電子情報通信技術史—おもに日本を中心としたマイルストーン』 コロナ社  
藤井信生 (2006) 『ハンディブック電子』 オーム社  
小山田了三・小山田隆信 (2007) 『技術史から学ぶ情報学』 東京電機大学出版局  
櫻井芳雄 (2007) 『ブレインマシン・インタフェース最前線—脳と機械をむすぶ革新技術』 工業調査会  
ポール・E・セルージ (2008) 『モダン・コンピューティングの歴史』 未来社  
谷腰欣司 (2009) 『電気のすべてがわかる本』 ナツメ社  
福田京平 (2009) 『電気が一番わかる』 技術評論社  
情報処理学会歴史特別委員会 (編) (2010) 『日本のコンピュータ史』 オーム社  
福田務 (2010) 『発電・送電・配電が一番わかる』 技術評論社  
青木則夫 (2011) 『図解・テレビの仕組み—白黒テレビから地上デジタル放送まで』 講談社  
高橋雄造 (2011) 『電気の歴史—人と技術のものがたり』 東京電機大学出版局  
高橋雄造 (2011) 『ラジオの歴史—工作の文化』 と電子工業のあゆみ』 法政大学出版局  
ダニエル・R・ヘッドリック (2011) 『情報時代の到来—「理性と革命の時代」における知識のテクノロジー』 法政大学出版局  
三木哲也 (2011) 『通信のすべてがわかる本』 ナツメ社  
竹内伸 (2012) 『実物でたどるコンピュータの歴史』 東京図書  
飯田豊 (編) (2013) 『メディア技術史—デジタル社会の系譜と行方』 北樹出版  
上村雅之・細井浩一・中村彰憲 (2013) 『ファミコンとその時代』 NTT 出版

- ジョン・ガードナー (2013) 『世界を支配するベル研究所の興亡』文藝春秋社
- ダニエル・R・ヘッドリック (2013) 『インヴィジブル・ウェボン—電信と情報の世界史 1851-1945』日本経済評論社
- レフ・マノヴィッチ (2013) 『ニューメディアの言語—デジタル時代のアート、デザイン、映画』みすず書房 [2]
- 大場充 (2014) 『組込みソフトウェア工学ハンドブック』日科技連出版社
- Y. Igarashi, T. Altman, M. Funada, and B. Kamiyama (2014) *Computing: A Historical and Technical Perspective*, CRC Press
- 小田徹 (2015) 『コンピュータ開発のはてしない物語—起源から驚きの近未来まで』技術評論社

## 2.21 日本の技術史 (33 文献)

- 歴史的カメラ審査委員会 (編) (1975) 『日本カメラの歴史—歴史編』毎日新聞社
- 山内登貴夫 (1975) 『和鋼風土記—山雲のたたら師』角川書店
- 大野耐一 (1978) 『トヨタ生産方式—脱規模の経営をめざして』ダイヤモンド社
- 中村静治 (1979) 『戦後日本の技術革新』大月書店
- 岡光夫 (1988) 『日本農業技術史』ミネルヴァ書房
- 下川義雄 (1989) 『日本鉄鋼技術史』アグネ技術センター [2]
- 澤田平 (1996) 『和時計—江戸のハイテク技術』淡交社
- 日本造船学会 (編) (1997) 『日本造船技術百年史』日本造船学会
- 日本産業遺産研究会・文化庁歴史的建造物調査研究会 (編) (1998) 『建物の見方・しらべ方—近代産業遺産』ぎょうせい
- 文化庁歴史的建造物調査研究会 (編) (1998) 『建物の見方・しらべ方—近代土木遺産の保存と活用』ぎょうせい
- 伊東孝 (2000) 『日本の近代化遺産—新しい文化財と地域の活性化』岩波新書
- 岩波書店編集部 (2001) 『近代日本総合年表 第四版』
- 橋本毅彦・栗山茂久 (2001) 『遅刻の誕生—近代日本における時間意識の形成』三元社
- 佐々木稔 (2003) 『火銃統の伝来と技術』吉川弘文館
- 市長立浜城歴史博物館 (2003) 『江戸時代の科学技術—国友一貫斎から広がる世界』サンライズ

- 出版
- 中村修二 (2004) 『怒りのブレイクスルー—「青色発光ダイオード」を開発して見えてきたこと』集英社文庫
- (2006) 『近代土木遺産ウォーク関西』JTB パブリッシング
- 鈴木一義 (2006) 『見て楽しむ江戸のテクノロジー』数研出版
- 中岡哲郎 (2006) 『日本近代技術の形成—〈伝統〉と〈近代〉のダイナミクス』朝日選書 [2]
- 北河大次郎・後藤治 (2007) 『図説 日本の近代化遺産』河出書房新社
- 窪田陽一 (2007) 『世界に誇る日本の建造物—現代日本を創ったビッグプロジェクト』昭文社
- 高橋裕 (2007) 『現代日本土木史』彰国社
- 村上隆 (2007) 『金・銀・銅の日本史』岩波新書
- 石井正 (2008) 『トヨタの遺伝子—佐吉と喜一郎のイノベーション』三五館
- 日本ブラモデル工業共同組合 (編) (2008) 『日本ブラモデル 50 年史 1958-2008』文藝春秋社
- 平井東幸・種田明・堤一郎 (編) (2009) 『産業遺産を歩こう—初心者のための産業考古学入門』東洋経済新報社
- 黒滝哲哉 (2011) 『美鋼変幻—「たたら製鉄」と日本人』日刊工業新聞社
- 日本建築学会 (編) (2011) 『日本建築史図集』彰国社
- 並木誠士・青木美保子・清水愛子・山田由希代 (編) (2012) 『京都 伝統工芸の近代』思文閣出版
- 沢井実 (2013) 『マザーマシンの夢—日本工作機械工業史』名古屋大学出版会
- 中岡哲郎 (2013) 『近代技術の日本的展開』朝日新聞社
- 吉田善一 (2014) 『和の人間学—東洋思想と日本の技術史から導く人格者の行動規範』富山房インターナショナル [2]
- 国立科学博物館 (監修) (2015) 『日本のものづくり遺産—未来技術遺産のすべて』山川出版

## 2.22 技術論・その他の個別技術史 (88 文献)

- ポール・マントウ (1964) 『産業革命』東洋経済新報社
- 星野芳郎 (1970) 『技術の体系』岩波書店
- 石谷清幹 (1972) 『工学概論』コロナ社 [2]
- 織田武雄 (1974) 『地図の歴史—世界篇』講談社現代新書

- 日本建築学会 (編) (1976) 『近代建築史図集 新訂版』 彰国社
- 中村静治 (1977) 『技術論入門』 有斐閣
- 古島敏雄 (編) (1980) 『農書の時代』 農山漁村文化協会
- 荒井政治・内田星見・鳥羽敬一郎 (編) (1981) 『産業革命の世界 (2) 産業革命の技術』 有斐閣
- 日本建築学会 (編) (1981) 『西洋建築史図集 三訂版』 彰国社 [2]
- D・S・L・カードウェル (1982) 『技術・科学・歴史—転回期における技術の諸原理』 河出書房新社 [2]
- 川北稔 (1983) 『工業化の歴史的前提—帝国とジェントルマン』 岩波書店
- 下間頼一 (1983) 『技術文化史 12 講』 森北出版
- 中村静治 (編) (1988) 『情報と技術の経済学』 有斐閣
- 本山卓彦 (1988) 『おもしろいプラスチックのはなし』 日刊工業新聞社
- 葉師寺泰蔵 (1989) 『テクノヘゲモニー—国は技術で興り、滅びる』 中央公論社
- L・T・C・ロルト (1989) 『工作機械の歴史—職人の技からオートメーションへ』 平凡社
- 角山栄 (1992) 『時計の社会史』 中公新書
- 上出健二 (1993) 『繊維産業発達史概論』 日本繊維機械学会
- L・A・クラークソン (1993) 『プロト工業化—工業化の第一局面』 早稲田大学出版部
- 種田明 (1993) 『ドイツ技術史の散歩道』 同文館
- 林倬史・孤田文男 (編) (1993) 『技術革新と現代世界経済—技術開発・移転システムの国際比較』 ミネルヴァ書房
- 竹原あき子 (1994) 『魅せられてプラスチック—文化とデザイン』 光人社
- 赤木新介 (1995) 『新交通機関論—交通的要請とテクノロジー』 コロナ社
- 朝日新聞社 (編) (1995) 『テクノ時代の創造者—科学・技術』 朝日新聞社
- 森谷正規 (1995) 『技術空洞化論』 東洋経済新報社
- 三浦玄樹 (1996) 『図説 世界の蓄音機』 星雲社
- ジェームズ・M・アッターバック (1998) 『イノベーション・ダイナミクス—事例から学ぶ技術戦略』 有斐閣
- デーヴィッド・A・ハウンシェル (1998) 『アメリカン・システムから大量生産へ 1800-1932』 名古屋大学出版会 [2]
- 富塚清 (1998) 『動力の歴史』 三樹書房
- 富永昭 (1998) 『熱音響工学の基礎』 内田老鶴園
- 森谷正規 (1998) 『文明の技術史観』 中公新書
- 景山夙 (1999) 『自動車「進化」の軌跡—写真で見るクルマの技術発達史』 山海堂
- 中村直人 (1999) 『高知物語』 アグネ技術センター
- クレイトン・クリステンセン (2001) 『イノベーションのジレンマ—技術革新が巨大企業を滅ぼすとき』 翔泳社
- 大阪市立大学商学部 (編) (2001) 『ビジネス・エッセンシャルズ 6 産業』 有斐閣 [2]
- 小山田了三・小山田隆信 (2001) 『材料技術史概論』 東京電機大学出版
- 竹下節子 (2001) 『からくり人形の夢—人間・機械・近代ヨーロッパ』 岩波書店
- デービッド・ノーブル (2001) 『人間不在の進歩—新しい技術、失業、抵抗のメッセージ』 こぶし書房
- 岡田昌彰 (2003) 『テクノスケープ—同化と異化の景観論』 鹿島出版会
- 調麻佐志・川崎勝・平川秀幸 (編著) (2003) 『ハイテク社会を生きる』 北樹出版
- 西田雅嗣・矢ヶ崎善太郎 (2003) 『図説 建築の歴史—西洋・日本・近代』 学芸出版社
- 長谷正人・中村秀之 (編訳) (2003) 『アンチ・スペクタクル—沸騰する映像文化の考古学』 東京大学出版会
- クエンティン・バジャック (2003) 『写真の歴史』 創元社
- 繊維学会 (編著) (2004) 『やさしい繊維の基礎知識』 日刊工業新聞社
- アンドリュー・フィーンバーク (2004) 『技術への問い』 岩波書店
- 藤田英一 (2004) 『金属物理博物館』 アグネ技術センター
- 水島とほる (2004) 『蒸気機関車誕生物語』 グランプリ出版
- 水野順子 (編) (2004) 『アジアの金型・工作機械産業—ローカライズド・グローバリズム下のビジネス・デザイン』 アジア経済研究所
- 石井正 (2005) 『知的財産の歴史と現代—経済・技術・特許の交差する領域へ歴史からのアプローチ』 発明協会
- 今田治 (2005) 『技術経営と生産システム』 『立命館経営学』 43 巻 5 号, pp.115-132, 立命館大学経営学会
- 黒川高明 (2005) 『ガラスの技術史』 アグネ技術センター
- 田畑暁生 (2005) 『地域情報化政策の事例研究』 北樹出版
- 橋本和美・藤江昌嗣・佐野正博・カク燕書 (2005) 『テクノ・グローカリゼーション—技術戦略・地域産業集積・地方電子政府化の位相』 梓出版社

- 浜島裕英 (2005) 『世界最速のF1タイヤ』新潮社
- ダニエル・R・ヘッドリック (2005) 『進歩の触手—帝国主義時代の技術移転』日本経済評論社
- 田中和明 (2006) 『よくわかる最新金属の基本と仕組み』秀和システム
- 畑村洋太郎 (2007) 『だから失敗は起こる』NHK出版
- レイ・カーツワイル (2007) 『加速するテクノロジー』NHK出版
- 建築史編集委員会 (編) (2008) 『コンパクト版 建築史 日本・西洋』彰国社
- 館かおる (編) (2008) 『テクノ/バイオ・ポリ ティクス—科学・医療・技術のいま』作品社
- 馬淵浩一 (2008) 『技術革新はどう行われてきたか—新しい価値創造に向けて』日外アソシエーツ
- 橋本毅彦 (2008) 『描かれた技術科学のかたち: サイエンス・イコノロジーの世界』東京大学出版会 [2]
- 吉田善一 (2008) 『企業研究者のキャリア・パス—物づくりのリーダーへの道』富山房インターナショナル [2]
- 村田純一 (2009) 『技術の哲学』岩波書店
- J・キャンベル (2010) 『中世の産業革命』岩波書店
- 現代技術史研究会 (編) (2010) 『徹底検証 21世紀の全技術』藤原書店
- 庄司邦昭 (2010) 『図説 船の歴史』河出書房新社
- フリップ・ステッドマン (2010) 『フェルメールのカメラ—光と空間の謎を解く』新曜社 [2]
- デイヴィッド・ホックニー (2010) 『秘密の知識: 巨匠も用いた知られざる技術の解明』青幻舎
- 石井正 (2011) 『世界を変えた発明と特許』ちくま新書
- 田口直樹 (2011) 『産業技術競争力と金型産業』ミネルヴァ書房
- 廣田義人 (2011) 『東アジア工作機械工業の技術形成』日本経済評論社
- 森芳久 (2011) 『音響技術史—音の記録の歴史』東京藝術大学出版会
- 山崎文徳 (2011) 『民間航空機における技術と産業の社会的発展』『立命館経営学』50巻1号, pp.87-105, 立命館大学経営学会
- ヘンリー・ヴィンセック (2012) 『レゴの本—創造力をのばす魔法のブロック 復刊版』復刊ドットコム
- ジョゼフ・ギース, フランシス・ギース (2012) 『大聖堂・製鉄・水車—中世ヨーロッパのテクノロジー』講談社
- 初山高仁 (2012) 『鉄の科学史—科学と産業のあゆみ』東北大学出版会
- スティーブン・ジョンソン (2013) 『イノベーションのアイデアを生み出す七つの法則』日経BP社
- 山崎文徳 (2013) 『民間航空機エンジンメーカーの収益構造とアフターマーケット』『立命館経営学』52巻2/3号, pp.405-427, 立命館大学経営学会
- 橋本毅彦 (2013) 『「ものづくり」の科学史—世界を変えた《標準革命》』講談社学術文庫 [4]
- 土木コレクション小委員会 (2014) 『土木コレクション HANDS+EYES』土木学会
- 日本技術士会プロジェクトチーム技術図書刊行会 (編) (2014) 『技術士ハンドブック 第2版』オーム社
- 日本生体医工学会 (編) (2014) 『先端医療を支える工学』コロナ社
- 竹田正一郎・森亮資 (2015) 『神聖ライカ帝国の秘密—王者たるカメラ 100年の系譜』潮書房光人社
- ピーター・ポール・フェルベーク (2015) 『技術の道德化—事物の道德性を理解し設計する』法政大学出版局
- 斎藤勝祐 (2016) 『知られざる鉄の科学』SBクリイティブ
- 農業・生物系特定産業技術研究機構 『農業技術バーチャルミュージアム・目で見る農業技術の発達』<http://trg.affrc.go.jp/v-museum/index.html>
- 経済産業省産業構造審議会 『未来開拓研究等に係る評価のあり方について』[http://www.meti.go.jp/policy/tech\\_evaluation/b00/b0000001.html](http://www.meti.go.jp/policy/tech_evaluation/b00/b0000001.html)

## 2.23 環境・公害 (42 文献)

- 荒畑寒村 (1970) 『谷中村滅亡史』新泉社
- 原田正純 (1972) 『水俣病』岩波新書 [2]
- レイチェル・カーソン (1974) 『沈黙の春』新潮文庫 [5]
- 有吉佐和子 (1979) 『複合汚染』新潮文庫
- 上田誠也 (1983) 『生きている地球』岩波書店
- 宇井純 (1985) 『技術と産業公害』東京大学出版会
- 石弘之 (1988) 『地球環境報告』岩波新書
- 山田國廣 (1991) 『水循環思考—ハイテク病社会の水汚染』北斗出版
- ロバート・クラーク (1994) 『エコロジーの誕生—エレン・スワローの生涯』新評論
- 米本昌平 (1994) 『地球環境問題とは何か』岩波



## 新書

- 小原秀雄 (監修) (1995) 『環境思想の系譜 1 環境思想の出現』東海大学出版会
- 佐尾和子・丹後玲子・根本稔 (1995) 『プラスチックの海—おびやかされる海の生きものたち』海洋工学研究所出版部
- 鷺谷いづみ・矢原徹一 (1996) 『保全生態学入門—遺伝子から景観まで』文一総合出版
- 大塚善樹 (1999) 『なぜ遺伝子組換え作物は開発されたか』明石書店
- 木野茂 (編) (2001) 『新版 環境と人間—公害に学ぶ』東京教学社
- 井上尚之 (2002) 『科学技術の発達と環境問題—科学技術の発展が人類にもたらした光と影』東京書籍 [3]
- リンダ・リア (2002) 『レイチェル—レイチェル・カーソン『沈黙の春』の生涯』東京書籍
- W・J・パローズ (2003) 『気候変動—多角的視点から』シュプリンガーフェアラーク東京
- 鳥越皓之 (2004) 『環境社会学—生活者の立場から考える』東京大学出版会
- 欧州環境省 (2005) 『レイト・レッスンズ—14 の事例から学ぶ予防原則』七ツ森書館
- 田中優 (2005) 『戦争をやめさせ環境破壊をくいとめる新しい社会のつくり方—エコとピースのオルタナティブ』合同出版
- 中村五郎 (2005) 『母は枯れ薬剤を浴びた』岩波書店
- 青木康展 (2006) 『環境中の化学物質と健康』裳華房
- アル・ゴア (2007) 『不都合な真実』ランダムハウス
- 上岡克己・土遠恵子・原強 (編著) (2007) 『レイチェル・カーソン』ミネルヴァ書房
- 三菱 UFJ リサーチ & コンサルティング環境・エネルギー部 (監修) (2007) 『手にとるように環境問題がわかる本』かんき出版
- 江守正多 (2008) 『地球温暖化の予測は「正しい」か?—不確かな未来に科学が挑む』化学同人
- 小田康徳 (編) (2008) 『公害・環境問題史を学ぶ人のために』世界思想社
- IPCC (編) (2009) 『IPCC 地球温暖化第四次レポート』中央法規
- 北野康 (2009) 『水の科学 第三版』NHK ブックス
- 鷺谷いづみ・夏原由博・松田裕之・椿宣高 (2010) 『地球環境保全と保全生物学』岩波書店
- 科学技術社会論学会 (2011) 『地球温暖化問題』(科学技術社会論学会誌第九号) 玉川大学出版部
- 船橋晴俊 (編) (2011) 『環境社会学』弘文堂

- ウィリアム・バイナム, ヘレン・バイナム (編) (2012) 『Medicine—医学を変えた 70 の発見』医学書院 [3]
- ウォレス・ブロッカー (2013) 『気候変動はなぜ起こるのか』講談社
- NPO 環境市民大学よっかいち (2013) 『四日市公判判決 40 周年セミナー報告集』東海出版
- 金原榮 (監修) (2014) 『環境科学 改訂版』実教出版
- 津田敏秀 (2014) 『医学者は公害事件で何をしてきたのか』岩波現代文庫 [2]
- 友澤悠季 (2014) 『「問い」としての公害—環境社会学者・飯島伸子の思索』勁草書房
- 太田和子 (2015) 『イラスト 私たちと環境』東京教学社
- マリー=モニク・ロバン (2015) 『モンサント—世界の農業を支配する遺伝子組み換え企業』作品社
- 竹内俊郎・中田英昭・和田時夫・有本貴文・渡部終五・中前明・橋本牧 (編) (2016) 『水産海洋ハンドブック 第 3 版』生物研究社

## 2.24 核・原子力 (35 文献)

- J・ウィルソン (編) (1979) 『われらの時代に起ったこと—原爆開発と 12 人の科学者』岩波書店
- モニカ・ブラウ (1988) 『検閲 1945 - 1949: 禁じられた原爆報道』時事通信社 [2]
- 高木仁三郎 (1989) 『巨大事故の時代』弘文堂
- 笹本征男 (1995) 『米軍占領下の原爆調査: 原爆加害国になった日本』新幹社 [2]
- 山崎正勝・日野川静枝 (編著) (1997) 『増補 原爆はこうして開発された』青木書店 [3]
- 高木仁三郎 (1998) 『いま自然をどうみるか』白水社
- ラングドン・ウィナー (2000) 『鯨と原子炉—技術の限界を求めて』紀伊国屋書店
- カール・Z・モーガン (2003) 『原子力開発の光と影』昭和堂
- 鎌田七男 (2005) 『広島のおばあちゃん』シフトプロジェクト
- 平田光司 (2005) 「日本の原子力開発体制がはらむ問題」『科学』75 巻 9 号, pp.1067-1070, 岩波書店
- 平田光司 (2010) 「プルトニウムの研究史—社会との関連を中心に」『科学』80 巻 2 号, pp.170-174, 岩波書店
- 井野博満 (編) (2011) 『福島原発事故はなぜ起きたか』藤原書店
- 欧州放射線リスク委員会 (ECRR)(2011) 『放射

線被ばくによる健康影響とリスク評価—欧州放射線リスク委員会 (ECRR) 2010 年勧告』明石書店

- 小出裕章 (2011) 『原発と放射能』河出書房新社  
 児玉龍彦 (2011) 『内部被曝の真実』幻冬社新書  
 後藤政志 (2011) 『「原発をつくった」から言えること』クレヨンハウス  
 高木仁三郎 (2011) 『原子力神話からの解放—日本を滅ぼす九つの呪縛』講談社 α 文庫  
 中川保雄 (2011) 『増補 放射線被曝の歴史—アメリカ原爆開発から福島原発事故まで』明石書店 [3]  
 平田光司 (2011) 「核の平和利用、軍事利用」『科学』81 卷 12 号, pp.1272-1276, 岩波書店  
 山崎正勝 (2011) 『日本の核開発: 1939-1955 原爆から原子力へ』績文堂 [2]  
 薬袋佳孝・谷田貝文夫 (2011) 『今知りたい放射線と放射能—生体への影響と環境でのふるまい』オーム社  
 吉岡斉 (2011) 『新版 原子力の社会史—その本格的展開』朝日新聞社 [3]  
 小出裕章 (2012) 『図解 原発のウソ』扶桑社  
 ジョン・ゴフマン (2012) 『新装版 人間と放射線—医療用 X 線から原発まで』明石書店 [2]  
 放射線被曝者医療国際協力推進協議会 (編) (2012) 『原爆放射線の人体影響 第 2 版』文光堂  
 吉見俊哉 (2012) 『夢の原子力』ちくま新書 [2]  
 ヨアヒム・ラートカウ (2012) 『ドイツ原発運動小史: 原子力産業・核エネルギー・公共性』みすず書房  
 歴史学研究会 (編) (2012) 『震災・核災害の時代と歴史学』青木書店  
 若尾祐司・本田宏 (編) (2012) 『反核から脱原発へ: ドイツとヨーロッパ諸国の選択』昭和堂  
 加藤哲郎・井川充雄 (編) (2013) 『原子力と冷戦: 日本とアジアの原発導入』花伝社 [2]  
 影浦峯 (2013) 『信頼の条件—原発事故をめぐることば』岩波科学ライブラリー  
 肥田舜太郎 (2013) 『被爆と被曝』幻冬舎ルネッサンス新書  
 原子力市民情報室 (2015) 『原子力市民年鑑 2015』七つ森書館  
 ジム・バゴット (2015) 『原子爆弾 1938-1950 年』作品社  
 蜂谷道彦 (2015) 『ヒロシマ日記 改装版』法政大学出版局

## 2.25 自然科学概論 (11 文献)

- 木村陽二郎 (1981) 『自然科学概論』裳華房 [2]  
 宮川雄一郎 (1986) 『自然科学概論—科学思想の変遷とその背景』森北出版 [2]  
 小野周 (1988) 『自然科学概論』朝倉書店 [2]  
 加藤邦興・慈道祐治・山崎正勝 (編著) (1991) 『新版 自然科学概論』青木書店 [2]  
 池内了 (1991) 『宇宙から見た自然』新日本出版  
 甲斐義幸・中島篤之助 (1992) 『新編自然科学入門』学術図書出版社 [2]  
 宇佐美正一郎 (2000) 『自然科学への招待』開成出版  
 池内了 (2008) 『自然を解剖する』NHK 出版  
 大井万紀人 (2012) 『宇宙と地球の自然史』勁草書房  
 海部宣男・星元紀 (2012) 『自然を理解するために—現代の自然科学概論』放送大学教育振興会 [2]  
 溝口元・河合忍 (2015) 『自然科学のとびら 生命・宇宙・生活』アイ・ケイコーポレーション [2]

## 2.26 科学論 (45 文献)

- 湯川秀樹・梅棹忠夫 (1967) 『人間にとって科学とは何か』岩波新書  
 武谷三男 (1970) 『科学入門—科学的なものの考え方』勁草書房  
 ユルゲン・ハーバマス (1970) 『イデオロギーとしての技術と科学』紀伊国屋書店  
 板倉聖宣 (1977) 『科学的とはどういうことか—いたずら博士の科学教室』仮説社  
 アンリ・ポアンカレ (1977) 『科学の価値』岩波文庫 [2]  
 村上陽一郎 (1979) 『新しい科学論—「事実」は理論をたおせるか』講談社 [6]  
 中山茂 (1984) 『市民のための科学論』社会評論社  
 H・I・ブラウン (1985) 『科学論序説—新パラダイムへのアプローチ』培風館  
 M. A. Plastow・五十嵐善英 (1989) *Mind of Science*, 共立出版  
 八杉龍一 (1991) 『新版 科学とは何か』東京大学社 [4]  
 村上陽一郎 (1994) 『科学者とは何か』新潮社 [4]  
 桜井邦朋 (1995) 『現代科学論 15 講—科学はいずこへ行くのか』東京大学社

廣松渉 (1995) 『科学の危機と認識論』紀伊国屋書店

池内了 (1996) 『科学の考え方・学び方』岩波ジュニア新書

佐々木力 (1996) 『科学論入門』岩波新書 [7]

H・コリンズ, T・ビンチ (1997) 『七つの科学事件ファイル—科学論争の顛末』化学同人 [3]

村上陽一郎 (1997) 『新しい科学の見方』NHKテキスト

池田清彦 (1998) 『構造主義科学論の冒険』講談社学術文庫

井山弘幸 (1998) 『鏡のなかのアインシュタイン—つくられる科学のイメージ』化学同人

上岡義雄 (1999) 『神になる科学者たち—21世紀科学文明の危機』日本経済新聞社 [2]

アイリック・ニュート (1999) 『世界のたね—真理を追いもどめる科学の物語』NHK出版

長谷川真理子 (1999) 『科学の目 科学のこころ』岩波新書

井山弘幸・金森修 (2000) 『現代科学論 科学をとらえ直そう』新曜社 [8]

金森修 (2000) 『サイエンス・ウォーズ』東京大学出版会

村上陽一郎 (2000) 『科学の現在を問う』講談社現代新書

金森修・中島秀人 (編) (2002) 『科学論の現在』勁草書房

黒田玲子 (2002) 『科学を育む』中公新書

井村裕夫 (2005) 『21世紀を支える科学と教育』日経新聞社

梶雅範 (編) (2007) 『科学者ってなんだ』丸善

リー・ストロベル (2009) 『宇宙は神が造ったのか?—聖書の「科学」を調べたジャーナリストの記録』いのちのこば社

長神風二 (2010) 『予定不調和—サイエンスがひらく、もう一つの世界』ディスカヴァー・トゥエンティワン

橋本毅彦 (2010) 『〈科学の発想〉をたずねて: 自然哲学から現代科学まで』左右社 [10]

村上陽一郎 (2010) 『人間にとって科学とは何か』新潮選書

ジェローム・ラベッツ (2010) 『ラベッツ博士の科学論—科学神話の終焉とポスト・ノーマル・サイエンス』こぶし書房 [4]

佐藤文隆 (2011) 『職業としての科学』岩波新書

池内了 (2012) 『科学と人間の不協和音』角川書店

池内了 (2012) 『科学の限界』ちくま新書

マックス・シェラー (2012) 『宇宙における人間の地位』白水社

アラン・ソーカル, ジャン・プリクモン (2012)

『知』の欺瞞—ポストモダン思想における科学の濫用』岩波現代文庫

井山弘幸 (2013) 『パラドックスの科学論—科学的推論と発見はいかになされるか』新曜社

チャルマーズ (2013) 『改訂新版 科学論の展開』恒星社厚生閣 [4]

野家啓一 (2013) 『科学の解釈学』講談社学術文庫

岸田一隆 (2014) 『3つの循環と文明論の科学』エネルギーフォーラム

柴田和子 (2014) 『科学史・科学論—科学技術の本質を考える』共立出版

金森修 (2015) 『科学の危機』集英社新書 [2]

## 2.27 STS (58 文献)

ヨセフ・ベン＝デービッド (1974) 『科学の社会学』至誠堂

J・D・バナール (1981) 『科学の社会的機能』勁草書房

畑田耕一・宮西正宜 (編) (1998) 『科学技術と人間のかかわり』大阪大学出版会

高木仁三郎 (1999) 『市民科学者として生きる』岩波新書

村上陽一郎 (1999) 『科学・技術と社会』光村教育図書 [4]

ブルーノ・ラトゥール (1999) 『科学が作られているとき』産業図書 [3]

21世紀の社会と科学技術を考える懇談会 (2000) 『社会とともに歩む科学技術を目指して』大蔵省印刷局

科学技術社会論学会 (2002) 『「科学技術と社会」を考える』科学技術社会論学会誌第1号, 玉川大学出版部

小林傳司 (編) (2002) 『公共のための科学技術』玉川大学出版部

宮川公男 (2002) 『政策科学入門 第2版』東洋経済新報社

山崎茂明 (2002) 『科学者の不正行為』丸善

池内了 (2003) 『科学・技術と社会』放送大学教育振興会

科学技術社会論学会 (2003) 『知の責任』科学技術社会論学会誌第2号, 玉川大学出版部

藤井聡 (2003) 『社会的ジレンマの処方箋—都市・交通・環境問題のための心理学』ナカニシヤ出版

藤垣裕子 (2003) 『専門知と公共性』東京大学出版会 [2]

石浜弘道・岩井義和・雨宮久美 (2004) 『科学技術と人間』和広出版

- 科学技術社会論学会 (2004) 『科学技術と社会の共生』科学技術社会論学会誌第3号, 玉川大学出版部
- 都留重人 (2004) 『科学と社会—科学者の社会的責任』岩波書店
- 堀井秀之 (2004) 『問題解決のための「社会技術」—分野を超えた知の協働』中公新書
- 藤垣裕子 (2005) 『科学技術社会論の技法』東京大学出版会 [10]
- 村上陽一郎 (2005) 『安全と安心の科学』集英社新書
- 科学技術社会論学会 (2006) 『社会と技術のネットワークの構成』科学技術社会論学会誌第4号, 玉川大学出版部
- シェルドン・クリムスキー (2006) 『産学連携と科学の墮落』海鳴社
- 中山茂 (2006) 『科学技術の国際競争力』朝日新聞社
- イアン・ハッキング (2006) 『何が社会的に構成されるのか』岩波書店
- 広田すみれ・増田真也・坂上貴之 (2006) 『心理学が描くリスクの世界—行動的意思決定入門』慶応義塾大学出版会
- 科学技術社会論学会 (2007) 『サイエンス・コミュニケーション』科学技術社会論学会誌第5号, 玉川大学出版部
- 小林博司 (2007) 『トランス・サイエンスの時代—科学技術と社会をつなぐ』NTT出版 [4]
- 科学技術社会論学会 (2008) 『ナノテクノロジー』科学技術社会論学会誌第6号, 玉川大学出版部
- 藤垣裕子・廣野喜幸 (編) (2008) 『科学コミュニケーション論』東京大学出版会 [4]
- 中島秀人 (2008) 『社会の中の科学』放送大学教育振興会 [18]
- ブルーノ・ラトゥール (2008) 『虚構の「近代」』新評論 [2]
- 松本三和夫 (2009) 『テクノサイエンス・リスクと社会学』東京大学出版会
- 志村史夫 (2009) 『人間と科学・技術』牧野出版
- グレゴリー・N・デリー (2009) 『科学とその働き—科学社会論の問い』大学教育出版
- サンドラ・ハーディング (2009) 『科学と社会的な不平等—フェミニズム、ポストコロニアリズムからの科学批判』北大路書房
- Ivan Valiela (2009) *Doing Science: Design, Analysis, and Communication of Scientific Research*, 2nd ed. Oxford University Press
- D.B. Resnik (2009) *Playing Politics with Science*, Oxford University Press
- 鈴木淳 (2010) 『科学技術政策』山川出版社
- 鈴木淳 (2010) 『日本史リブレット 科学技術政策』山川出版社
- 平川秀幸 (2010) 『科学は誰のものか—社会の側から問い直す』NHK出版生活人新書 [7]
- 若松征男 (2010) 『科学技術政策に市民の声をどう届けるか—コンセンサス会議、シナリオ・ワークショップ、ディープ・ダイアログ』東京電機大学出版局
- Sergio Sismondo (2010) *An Introduction to Science and Technology Studies*, Wiley-Blackwell [2]
- 科学技術社会論学会 (2011) 『科学技術政策の現在』科学技術社会論学会誌第8号, 玉川大学出版部
- 菊池誠・松永和紀・伊勢田哲治・平川秀幸 (2011) 『もうダメされないための「科学」講義』光文社新書 [2]
- 岸田一隆 (2011) 『科学コミュニケーション—理科の<考え方>をひらく』平凡社新書
- 兵藤友博 (編) (2011) 『科学・技術と社会を考える』ムイスリ出版 [3]
- 唐木順三 (2012) 『「科学者の社会的責任」についての覚え書』ちくま学芸文庫
- 岸田一隆 (2012) 『ボクらのエネルギーって、どうなるの?』エクスマレッジ
- 小林信一 (2012) 『社会技術概論』放送大学教育振興会 [4]
- 伊勢田哲治・戸田山和久 (編) (2013) 『科学技術をよく考える—クリティカルシンキング練習帳』名古屋大学出版会 [4]
- 科学技術社会論学会 (2013) 『「科学を評価する」を問う』科学技術社会論学会誌第10号, 玉川大学出版部
- 島園進 (2013) 『科学が道を踏みはずすときつくられた放射線「安全」論』河出書房新社
- 廣野喜幸 (2013) 『サイエンティフィック・リテラシー—科学技術リスクを考える』丸善出版
- 池内了 (2014) 『科学・技術と現代社会』上・下みすず書房 [5]
- 文部科学省 (2015) 『科学技術白書 平成27年度版』日経印刷
- 日本総合科学技術会議 『科学技術政策』 <http://www8.cao.go.jp/cstp/stmain.html>
- 科学技術政策研究所 『科学技術動向』 <http://www.nistep.go.jp/> [2]

## 2.28 倫理 (29 文献)

- 香川知晶 (2000) 『生命倫理の成立—人体実験・臓器移植・治療停止』勁草書房
- 渡邊悦夫・中村和夫 (編) (2001) 『科学を学ぶ者の倫理—東京水産大学公開シンポジウム』

成山堂書店  
 加藤尚武 (2005) 『環境と倫理—自然と人間の共生を求めて』有斐閣  
 新田孝彦・蔵田伸雄・石原孝二 (編) (2005) 『科学技術倫理を学ぶ人のために』世界思想社 [2]  
 樋口範雄・土屋裕子 (編) (2005) 『生命倫理と法』弘文堂  
 マイケル・S・ガザニガ (2006) 『脳のなかの倫理：脳倫理学序説』紀伊國屋書店  
 ウィリアム・ブロード、ニコラス・ウェイド (2006) 『背信の科学者たち—論文捏造、データ改ざんはなぜ繰り返されるのか』講談社  
 松木純也 (2006) 『基礎からの技術者倫理—わざを生かす眼と心』電気学会  
 村上陽一郎 (2006) 『工学の歴史と技術の倫理』岩波書店  
 村田純一 (2006) 『技術の倫理学』丸善  
 村松秀 (2006) 『論文捏造』中公新書ラクレ  
 赤林朗 (編) (2007) 『入門・医療倫理 II』勤草書房  
 石田三千雄・村上理一・村田貴信・山口裕之・山口修二・宮田憲治 (2007) 『科学技術と倫理』ナカニシヤ出版  
 金原榮 (監修) (2007) 『エンジニアのための哲学・倫理』実教出版  
 樋口範雄・岩田太 (編) (2007) 『生命倫理と法 II』弘文堂  
 今道友信・札幌順 (2008) 『はじめて学ぶ技術倫理の教科書』丸善出版  
 杉本泰治・高城重厚 (2008) 『第四版 大学講義 技術者の倫理入門』丸善出版  
 信原幸弘・原望 (編著) (2008) 『脳神経倫理学の展望』勤草書房  
 甲斐克則 (編) (2010) 『レクチャー生命倫理と法』法律文化社  
 電気学会倫理委員会 (編) (2010) 『技術者倫理事例集』電気学会  
 黒田光太郎・戸田山和久・伊勢田哲治 (編) (2012) 『誇り高い技術者になろう 第2版—工学倫理ノススメ』名古屋大学出版会  
 田岡直規・橋本義平・水野朝夫 (編) (2012) 『技術者倫理 日本の事例と考察—問題点と判断基準を探る』丸善出版  
 樋口範雄 (編) (2012) 『ケース・スタディ 生命倫理と法 第2版』有斐閣  
 比屋根均 (2012) 『技術の営みの教養基礎 技術の知と倫理』理工図書  
 中村収三、近畿化学協会工学倫理研究会 (共編著) (2013) 『技術者による実践的工学倫理—先人の知恵と戦いから学ぶ 第3版』化学同人

齊藤文・坂下浩司 (編) (2014) 『はじめての工学倫理 第三版』昭和堂  
 勢力尚雅 (編) (2015) 『科学技術の倫理学 II』粹出版社  
 ナーシングサプリー編集委員会 (編) (2015) 『事例でまなぶケアの倫理』メディカ出版  
 山脇直司 (編) (2015) 『科学・技術と社会倫理』東京大学出版会

## 2.29 科学哲学 (21 文献)

中谷吉吉郎 (1958) 『科学の方法』岩波新書 [3]  
 カール・G・ヘンベル (1967) 『自然科学の哲学』培風館  
 カール・ポパー (1971) 『科学的発見の論理』上・下巻 恒星社厚生閣  
 A・ブраниガン (1984) 『科学的発見の現象学』紀伊國屋書店  
 柳瀬睦男 (1984) 『科学の哲学』岩波新書  
 浅田彰・黒田末寿・佐和隆光・長野敬・山口昌哉 (1986) 『科学的方法とは何か』中公新書  
 イムレ・ラカトシュ (1986) 『方法の擁護—科学的研究プログラムの方法論』新曜社  
 内井惣七 (1995) 『科学哲学入門』世界思想社 [2]  
 Samir Okasha (2002) *Philosophy of Science*, Oxford University Press  
 伊勢田哲治 (2003) 『疑似科学と科学の哲学』名古屋大学出版会 [6]  
 野家啓一 (2004) 『科学の哲学』放送大学教育振興会  
 戸田山和久 (2005) 『科学哲学の冒険』NHK 出版 [9]  
 竹内薫 (2006) 『99.9% は仮説—思い込みで判断しないための考え方』光文社新書  
 Lorraine Daston, Peter Galison (2007) *Objectivity*, Cambridge, MA  
 池内了 (2008) 『疑似科学入門』岩波書店  
 サミール・オカーシャ (2008) 『科学哲学』岩波書店 [2]  
 森田邦久 (2010) 『理系人に役立つ科学哲学』化学同人  
 戸田山和久 (2011) 『「科学的思考」のレクチャー—学校で教えてくれないサイエンス』NHK 出版 [3]  
 アレックス・ローゼンバーグ (2011) 『科学哲学』春秋社  
 ダニエル・デネット (2015) 『思考の技法—直観ポンプと 77 の思考術』青土社  
 野家啓一 (2015) 『科学哲学への招待』ちくま学

芸文庫 [7]

## 2.30 哲学 (32 文献)

- 松浪信三郎 (1962) 『実存主義』岩波新書  
 プラトン (1966) 『世界の名著 プラトン 1』中央公論社  
 デカルト (1967) 『世界の名著 デカルト』中央公論社  
 ベンサム, ミル (1967) 『世界の名著 ベンサム, ミル』中央公論社  
 ロック, ヒューム (1968) 『世界の名著 ロック, ヒューム』中央公論社  
 プラトン (1969) 『世界の名著 プラトン 2』中央公論社  
 アリストテレス (1971) 『ニコマコス倫理学』上・下巻, 岩波文庫  
 アリストテレス (1972) 『世界の名著 アリストテレス』中央公論社  
 カント (1972) 『世界の名著 カント』中央公論社  
 片山正直・岩井義人 (1976) 『哲学への道』和広出版  
 大森荘蔵 (1981) 『流れとよどみ—哲学断章』産業図書 [2]  
 イアン・ハッキング (1986) 『表現と介入—ホルヘスの幻想と新ベコン主義』産業図書  
 ジョルジュ・カンギレム (1987) 『正常と病理』法政大学出版局  
 内山勝利・中川純男 (編) (1996) 『西洋哲学史 古代・中世編—フィロソフィアの源流と伝統』ミネルヴァ書房  
 デカルト (1997) 『方法序説』岩波文庫  
 エルンスト・カッシーラー (1997) 『人間』岩波文庫  
 笹倉秀夫 (2002) 『法哲学講義』東京大学出版会  
 濱田侑子 (2002) 『生きる環境の模索—苦悩する知』創文社  
 瀬戸一夫 (2003) 『知識と時間—古代ギリシアの文化相対主義』勁草書房  
 伊勢田哲治 (2005) 『哲学思考トレーニング』ちくま新書  
 熊野純彦 (2006) 『西洋哲学史—古代から中世へ』岩波新書  
 大東俊一・奥田和夫・菅沢龍文・大貫義久 (2006) 『自然と人間—哲学からのアプローチ』梓出版社  
 高橋昌一郎 (2007) 『哲学ディベート: <倫理> を <論理> する』NHK ブックス  
 金森修 (2010) 『<生政治> の哲学』ミネルヴァ書房

- 武谷三男 (2010) 『弁証法の諸問題 新装版』勁草書房  
 ヴェルナン (2011) 「神話から理性へ」『叢書「アナル」1929-2010 II』pp.335-365, 藤原書店  
 横田理博 (2011) 『ウェーバーの倫理思想』未來社  
 ドミニック・ルクール (2011) 『カンギレム: 生を問う哲学者の全貌』白水社  
 中村元 (2012) 『日本人の思维方法』春秋社  
 プラトン (2012) 『ソクラテスの弁明』光文社古典新訳文庫  
 楠見孝・道田泰司 (編) (2015) 『批判的思考』新曜社  
 田中正人 (2015) 『哲学用語図鑑』プレジデント社

## 2.31 世界史一般 (20 文献)

- E・H・カー (1962) 『歴史とは何か』岩波新書  
 G・B・サンソム (1966) 『西歐世界と日本』筑摩書房  
 ハンス・ウェルナー・ゲッツ (1989) 『中世の日常生活』中央公論社  
 ダニエル・R・ヘッドリック (1989) 『帝国の手先—ヨーロッパ膨張と技術』日本経済評論社 [2]  
 松井透 (1991) 『世界市場の形成』岩波書店  
 E・J・ホブズボーム (1993) 『帝国の時代 1 1875-1914』みすず書房  
 エドワード・ギボン (1995) 『ローマ帝国衰亡史』1-10 筑摩書房  
 E・J・ホブズボーム (1998) 『帝国の時代 2 1875-1914』みすず書房  
 ジャレド・ダイヤモンド (2000) 『銃・病原菌・鉄』上・下 草思社  
 角山栄・川北稔 (2001) 『路地裏の大英帝国』平凡社  
 ロバート・マーシャル (2001) 『図説 モンゴル帝国の戦い』東洋書林  
 A・ゴールズワーシー (2003) 『図説 古代ローマの戦い』東洋書林  
 Robert Moore (2007) *The Formation of a Persecuting Society*, 2nd ed. Malden  
 木下康彦, 木村靖二, 吉田寅 (編) (2008) 『詳説 世界史研究』山川出版社 [2]  
 (2010) 『アカデミア世界史—時代と地域の羅針盤』浜島書店  
 井野瀬久美恵 (2010) 『イギリス文化史』ミネルヴァ書房  
 トビー・ウィルキンソン (2014) 『図説古代エジ

プト人物列伝』悠書館  
 スティーヴン・スネイプ (2015) 『古代エジプト  
 都市百科 王と神と民衆の生活』 終風舎  
 高山博 (2015) 『中世シチリア王国の研究—異文  
 化が交差する地中海世界』 東京大学出版会  
 西本晃二 (2015) 『ルネッサンス史』 東京大学出  
 版会

## 2.32 事典・図鑑 (9 文献)

日蘭学会 (編) (1984) 『洋学関係研究要覧  
 (1868~1982)』 日外アソシエーツ  
 伊東俊太郎・山田慶児・坂本賢三・村上陽一郎  
 (編) (1994) 『科学史技術史事典 縮刷版』 弘  
 文堂 [6]  
 廣松渉ほか (編) (1998) 『岩波 哲学・思想事  
 典』 岩波書店 [2]  
 下坂英 (1999) 『さいえんす死語事典』 『サイア  
 ス』 1999 年 1 月号—2000 年 12 月号, 朝日  
 新聞社  
 大庭健 (編) (2006) 『現代倫理学事典』 弘文堂  
 アダム・ハート=デイヴィス (総監修) (2011)  
 『サイエンス大図鑑』 河出書房新社  
 科学・技術・倫理百科事典翻訳編集委員会 (2012)  
 『科学・技術・倫理百科事典』 丸善出版  
 Heilbron (編) (2014) 『現代科学史大百科事典』  
 朝倉書店  
 トビー・ウィルキンソン (2016) 『図説古代エジ  
 プト文明辞典』 終風舎

## 2.33 年表 (3 文献)

湯浅光朝 (1988) 『コンサイス科学年表』 三省堂  
 [4]  
 アイザック・アシモフ (1996) 『アイザック・ア  
 シモフの科学と発見の年表』 丸善 [2]  
 小山慶太 (2011) 『科学史年表』 中公新書 [7]

## 2.34 その他 (54 文献)

司馬遼太郎 (1978) 『街道をゆく 4』 朝日新聞社  
 江藤淳 (1979) 『夏目漱石—決定版』 創文社  
 ジャン・ボードリヤール (1979) 『消費社会の神  
 話と構造』 紀伊国屋書店  
 イマニュエル・ウォラーステイン (1981) 『近  
 代世界システム』 1-2 巻, 岩波現代選書  
 塩野七生 (1982) 『チェーザレ・ボルジアあるい  
 は優雅なる冷酷』 新潮文庫

清水正徳 (1982) 『働くことの意味』 岩波新書  
 本多勝一 (1982) 『日本語の作文技術』 朝日文庫  
 [2]  
 東野治之 (1983) 『木簡が語る日本の古代』 岩波  
 新書  
 ジョオン・サースク (1984) 『消費社会の誕生—  
 近世イギリスの新企業』 東京大学出版会  
 篠田義明 (1986) 『コミュニケーション技術—実  
 用的文章の書き方』 中公新書  
 ヴェーバー (1989) 『プロテスタンティズムの倫  
 理と資本主義の精神』 岩波文庫 [2]  
 木下是雄 (1990) 『レポートの組み立て方』 ちく  
 ま学芸文庫 [2]  
 平井正徳 (1990) 『イギリス名詩選』 岩波文庫  
 ドラッカー (1993) 『ポスト資本主義社会』 ダイ  
 アモンド社  
 中村邦生・大神田丈二・木下卓 (1994) 『たのし  
 く読めるイギリス文学』 ミネルヴァ書房  
 堀田善衛 (1994) 『ゴヤ』 1-4 巻, 朝日学芸文庫  
 佐藤常雄・大石慎三郎 (1995) 『食農史観を見直  
 す』 講談社  
 小出義雄 (2000) 『君ならでできる』 幻冬舎  
 高柳先男 (2000) 『戦争を知るための平和学入  
 門』 筑摩書房  
 見田宗介 (2001) 『宮沢賢治—存在の祭りの中  
 へ』 岩波現代文庫  
 ヨハン・ガルトゥング (2003) 『平和を創る発想  
 術—紛争から和解へ』 岩波書店 [3]  
 田中優・川崎哲・小林一朗 (編) (2003) 『戦争  
 をしなくてもすむ世界をつくる 30 の方法』  
 合同出版 [3]  
 目良誠二郎・石井勉 (2003) 『平和と戦争の絵本  
 4—非暴力で平和をもとめる人たち』 大月書  
 店 [3]  
 宇津木妙子 (2004) 『努力は裏切らない』 幻冬舎  
 文庫  
 小柴昌俊 (2004) 『やれば、できる』 新潮文庫  
 田畑暁生 (2004) 『情報社会を知るクリエイタ  
 ル・ワーズ』 フィルムアート社  
 平井伯昌 (2004) 『世界でただ一人の君へ—新人  
 類北島康介の育て方』 幻冬舎  
 吉見俊哉 (2004) 『メディア文化論』 有斐閣  
 井山弘幸 (2005) 『お笑い進化論』 青弓社  
 ジョナサン・クレーリー (2005) 『観察者の系譜  
 : 視覚空間の変容とモダニティ』 以文社 [2]  
 チャールズ・ディケンズ (2005) 『オリバー・ツ  
 イスト』 上・下巻, 新潮社  
 ドネラ・H・メドウズ, デニス・L・メドウズ,  
 ヨルゲン・ランダース (2005) 『成長の限界  
 人類の選択』 ダイアモンド社  
 ベティ・リアドン, アリシア・カベスード (2005)

- 『戦争をなくすための平和教育』明石書店  
井山弘幸(2007)『笑いの方程式』化学同人  
長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志(2007)『社会学』有斐閣  
山田昌弘(2007)『希望格差社会』ちくま文庫  
メリーウイン・アシュフォード(2008)『平和へのアクション 101 + 2—戦争やテロのない世界の実現に向けて』かもがわ出版 [2]  
デザインリテラシー研究会(編著)(2008)『情報デザインベシクス—DTP・プレゼン・ウェブを始める人のために』ユニテ  
リチャード・フロリダ(2008)『クリエイティブ資本論』ダイヤモンド社  
五味文彦・鳥海靖(編)(2009)『もういちど読む山川日本史』山川出版社  
井上健・山本史華・中井洋史(編)(2010)『世界を読み解くりテラシー』萌書房 [2]  
遠藤利國(2010)『明治廿五年九月のほととぎす—子規見参』未知谷  
小坂井敏晶(2011)『人が人を裁くということ』岩波新書  
濱口桂一郎(2011)『日本の雇用と労働法』日経文庫  
P. D. James(2011) *Talking About Detective Fiction*, Vintage  
遠藤利國(2012)『漫言翁 福沢諭吉』未知谷  
戸田山和久(2012)『新版論文の教室—レポートから卒論まで』NHK ブックス  
松井孝典(2012)『我関わる、ゆえに我あり—地球システム論と文明』集英社新書  
中西聡(編)(2013)『日本経済の歴史—列島経済史入門』名古屋大学出版会  
伊藤明己(2014)『メディアとコミュニケーションの文化史』世界思想社  
遠藤利國(2014)『続 漫言翁 福沢諭吉』未知谷  
ジョン・キーガン(2015)『戦略の歴史』上・下巻, 中公文庫  
田畑暁生(2015)『メディア・シンドロームと夢野久作の世界』NTT 出版  
アンヌ・モレリ(2015)『戦争プロパガンダ 10の法則』草思社文庫 [3]